



愛知大学国際中国学研究センター主催  
2008年度国際シンポジウム  
「中国をめぐる開発と和諧社会」報告

開催期間 2008年12月5日(金) - 12月7日(日)  
会場 車道校舎本館3階コンベンションホール

シンポジウム報告

【 開会挨拶 】

佐藤元彦（愛知大学・学長）

皆さま、こんにちは。愛知大学学長の佐藤でございます。本日は、本学の国際中国学研究センター主催の国際シンポジウム「中国をめぐる開発と和諧社会」を開催しましたところ、このように多くの方々にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。まずは大学を代表しましてお礼を申し上げたいと思います。

さて、多くの方々には既にご存じかと思いますが、本学の国際中国学研究センターは、2002年に文部科学省の「21世紀COEプログラム」に採択をされました。それ以来5年間、文部科学省から補助金をいただいて展開をしてきました。補助が終わってからも、国際シンポジウムをはじめとし、さまざまな事業を展開しております。本学における中国研究、あるいは教育の1つの大きな核になっております。

とりわけ研究という点では、このような国際シンポジウムをはじめとする研究会制度をとった取り組みが注目されるのですが、国際中国学研究センターと言いますと、教育事業にも触れないわけにはまいりません。

具体的に申し上げますと、2004年から博士の二重学位制度（デュアルディグリー・プログラム）を始めております。中国の北京にあります人民大学、天津にあります南開大学とテレビ会議システムで結んで授業をおこない、博士号を二重に付与するというプログラムが展開されています。毎年、何名かの二重学位の学生が出ていることは、この間の実績として忘れてはならないものだと思います。

あわせて、博士課程の学生あるいはポストドクターを念頭に置きながら、若手の研究者の育成にも力を入れています。日本人

で他大学に就職する、あるいは中国人で母国である中国で教員になる、このようなケースは珍しいことではありません。若手研究者の育成についても着実に実績を残しています。そのような若手の研究者が、次の国際中国学研究の担い手となりつつあります。南京大学との国際連携事業も一例ではないかと思えます。

さて、この3日間にわたる国際シンポジウムのテーマは、和諧社会に焦点をあてたものです。私は専門ではありませんので、にわかにならぬところで理解している範囲で少し申し述べます。

「和諧」の「和」とは、和睦と理解できるということのようです。それから「諧」は、調和あるいは協調というかたちで理解できると聞いております。従いまして和谐社会は、例えば経済的格差の是正、都市と農村との格差の是正、あるいは地域間格差の是正ということにとどまらず、いわば経済建設を優先してきた中国において、重点的に取り組まれてこなかった社会問題全般に対して、どのような解決策を打ち出していくのかという問題提起だと理解しています。

その意味では、国際中国学研究センターが経済のみならず、政治、文化、あるいは社会などについて幅広く研究の体制を整えてきました。まさに、その体制が取り組むべき時宜にかなったテーマであると思えます。

このようなかたちで、3日間、精力的に意見交換、討論が展開され、国際中国学センターにとって、さらなる発展のための機会となることを祈念しまして、ご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございます。

【 趣旨説明 】

高橋五郎（愛知大学国際中国学研究センター・所長）

ただいまご紹介いただきました愛知大学国際中国学研究センターの高橋です。本センター主催の国際シンポジウム「中国をめぐる開発と和諧社会－和諧は可能か－」というテーマを取り上げました理由や意味などについて、主催者側を代表して説明いたします。

その前に、皆様には、ご多忙のところ、今日のシンポジウムに報告者あるいはコメンテーターとして内外からご参加いただき、忠心よりお礼を申し上げます。

特に、このシンポジウム参加のために海外からおいでくださったアメリカ中国経済学会前会長で、現在カリフォルニア州立大学ロングビーチ校のジャック・ハウ（Jack Hou）教授、カナダのプレーザーバレー大学経済学部のルー・ディン（LU Ding）教授、台湾政治大学の金観濤（JIN Guantao）教授、浙江大学の呉曉波（WU Xiaobo）教授、中国科学院の宋献方（SONG Xianfang）教授、中国青海省社会科学員の孫発平（SUN Faping）研究員、華東師範大学の許紀霖（XU Jilin）教授、南京大学の張玉林（ZHANG Yulin）教授、南京大学の朱安新（ZHU Anxin）講師、香港中文大学の劉青峰（LIU Qing-feng）教授、復旦大学の臧志軍（ZANG Zhijun）教授、南開大学の王処輝（WANG Chuhui）教授、中央民族大学の張海洋（ZHANG Haiyang）教授、中国芸術研究院の方李莉（FANG Lili）教授の皆さま方には、心よりお礼を申し上げます。

また、会場においでくださった多数の一般の方々にも厚く御礼申し上げます。

本日から3日間の予定でおこないますシンポジウムが、報告者、コメンテーター、会場の皆さま方にとり、今回のテーマを通して、現代中国についての理解をさらに深

め、あるいは皆さまの研究課題に関する新しい刺激となるなど、実り多いものとなることを願っております。

ただいま佐藤学長より愛知大学国際中国学研究センターの概要について簡単な紹介がありましたが、せっかくの機会でもありますから、もう少し詳しく紹介したいと思います。

本センターは、2002年に設立されました。国内外の研究者のご参加をいただき、現代中国学に関する研究組織として、現代中国学研究方法に関する研究部会をはじめ5つの研究部会、すなわち中国政治、中国経済、中国文化、中国環境に関する研究部会を設置してきました。その研究成果の一部は、2008年春、それぞれの研究部会ごとの研究成果として5巻の著書を刊行しました。おかげさまで、現在のところ大変評判もよく順調に販売部数を伸ばしております。

また、私どもの研究活動の成果は、大学院教育にも反映するようになってきました。その1つは、愛知大学大学院中国研究科博士課程学生として、愛知大学および中国の南開大学と人民大学の2大学から入学試験に合格して入学した博士課程学生に対して、現代中国学に関する博士の学位取得のための教育をおこなう活動が第1点です。

第2点は、入学した博士課程学生を中心として、先ほどの内部研究組織においてリサーチアシスタントとして採用し、研究に携わることを通して、研究者としての資質をうながす指導です。

そして第3点目は、他大学出身者を含めたポストドクターのうち、将来性のある者を有給の研究員として採用し、先ほどの4つの研究組織の研究にかかわることを通して、より高度な研究に従事しながら、研究

業績の蓄積等を促す指導などです。

これらの研究活動は、本研究センターの若手研究者育成活動と位置付けておりますが、その成果は博士課程修了者の大学教員、国家研究機関、国家政府機関などへの就職となって実を結んでおります。本センターの研究教育活動に対し、引き続き、皆さま方からのご理解とご支援をお願い申し上げます。

さて、時間の都合もありますので本題に移ります。今回のシンポジウムにおいて、「中国をめぐる開発と和諧社会—和諧は可能か—」というテーマを選んだ理由は、一言で申し上げるならば、中国社会がますます安定と不安定、安心と不安を同居させつつあります。それが世界、特に東アジアや東南アジアに大きな影響を与えつつあります。同時に、逆に中国がそれらの地域から影響を受けるという相互関係がますます強まっている現状を多面的に検討し、今後の方向性を考えるという点にあります。

さて、今回のシンポジウムのタイトルのように「開発」と「和諧」という表現が、ひとつの組み合わせを持つキーワードとなっております。そこで、まず「開発」についてです。中国の現代的な概念である「開発」政策の骨子は、江沢民時代の1999年に始まった12省区を対象とする「西部大開発」のなかに見ることができます。

「西部大開発」は、東西地域の著しい開発格差の是正、少数民族の社会的・政治的安定化、環境保護政策の推進、そして、当初予定されたWTO（World Trade Organization:世界貿易機関）加盟による農業・農民等への影響の緩和などを目的とするものでした。その具体的手段として、西部地域における道路・鉄道・内陸空港建設、都市化の促進、西気東輸事業（西のガスを東に輸送する事業）、西電東送事業（西の電力を東に送る事業）、南水北調事業（南の水を北に送る事業）などの自然インフラ建設、退耕還林・還草事業、還草とは草牧にかえずという意味です。さらに、水利・節水事業など環境保護対策、その他産業構造調整、科学技術、教育の発展などの取り組みが予定されておりました。

このような取り組みは、社会的課題をハード面のインフラ整備を通じて達成しよう

とする取り組みだといえると思います。そして、この開発モデルは、中国の他の地域の開発にも当てはまるものですが、開発による国家社会の建設路線に加え、このたび登場したのが、和諧社会建設という考え方でした。それは2006年10月の第16次6中全会「中共中央社会主義和諧社会建設に関する重大問題決定」において明瞭にみることができます。和諧社会建設は、発足4年目を迎えていた胡錦濤政権の中心となる政治的課題となりました。

この「重大問題決定」という文書では、中国は全体的には既に和諧的ですが、なお和諧社会に少なからぬ影響を及ぼす矛盾や問題、例えば都市と農村や地域間における経済社会発展の不均衡、人口と資源環境問題の拡大、政治腐敗などが課題として残されているとされています。そのうえで、社会の和諧は中国社会主義の本質的属性であり、国家を強化し、民族振興を図り、人民の幸福を保証する手段として重要であるとされました。

そして、その目標達成を2020年におき、以下の6つの原則を挙げました。1) 人民の利益を優先する。2) 科学の発展を堅持する。3) 改革開放を堅持する。4) 民主政治を堅持する。5) 安定した改革的発展をおこなう。6) 共産党指導の下で社会建設をおこなうというものです。

和諧社会を建設しようとする背景には、激化する国内矛盾の緩和、人間中心社会の建設、中国社会の国際スタンダードと国際競争の激化、イデオロギー主導型国家建設方式の終焉の必要性などを認識していたことは疑う余地がありません。

以上、述べましたような開発と和諧を総合的に考察するには、多面的な方法による考察を総合する観点が重要だと思われます。多面的な方法とは、まず中国の西部大開発に見られたような典型的な開発と和諧社会建設を相関的に捉え、その一体性や分離性あるいは矛盾を意識しつつ、その特殊性と普遍性を把握するというものです。

開発については、市場と政府一体的な中国的成長モデルの検証抜きには論じることができない面があります。また、和諧の考察には、国内的調和と国際的調和という二重の考察が必要です。この場合、アジア

NIEsなどの開発・社会安定化モデルとの比較や相対化、同地域における農村開発モデル等との比較を視点に持つことも重要ではないかと思えます。普遍性を意識するのも、このような地域との関係を意識するからです。

これらの関係について、現代中国学方法の一環として本センターが構築してきた「共同態度論」にもとづく問題発見・解決型の地域研究法、すなわち平和のための地域研究法にもとづくほか、多様かつ自由なあらゆる研究方法を歓迎したいと思えます。

例えば、今回のシンポジウムのセッション区分である経済、政治、環境、文化の各研究領域と関連する開発経済学、開発政治学、開発環境学、開発人類学等の諸学問の方法も参考になるはずで。

また、中国と世界、あるいはアジアの間における相互の国際的な影響がますます拡大する現状、華僑・華人の存在をも考慮して、考察する国際的な中国研究、おそらくこれは「国際中国学」と言ってもいいのかもしれないでしょう。

本シンポジウムでは、開発の主眼が経済開発に置かれてきたことを踏まえ、まず経済セッションの議論を先行させ、その後、政治、環境、文化というセッション、あるいは研究領域から総合的な考察を加え、和諧社会の実現可能性と課題等について学術的討論を展開したいと思います。

これらの方法的視点のもとで、本シンポジウムを通じて、私たちは以下のような目標を共有したいと思います。中国がこれまで進めてきた開発の特殊性と普遍性、和諧の位置付けと背景・効果・矛盾、和諧社会の実現可能性と国際的影響について考察することです。キーワードは「開発」と「人間」です。そして、開発と人間の調和が、現代中国の枠組みにおいて、果たして可能かどうか、あるいはどのようにすれば可能なののでしょうか。その点は最も関心のあるところではないでしょうか。

中国は、今年オリンピックを成功させました。国際的な自信を背景に一流国家としての体裁を手にする資格を構築したということが可能です。経済的にも長い期間におよぶ経済成長を背景に、多額の資金蓄積を

実現し、外貨準備は2兆ドル、アメリカ国債投資は、日本を抜いて世界1位、およそ6,000億ドルにも達しています。既に中国は、以前の資金不足国から世界的な資金の出し手国に転換しています。改革開放以来つづく海外からの旺盛な直接投資や間接投資の成果、国内の旺盛な企業設立、経営気運の成果ともいえましょう。

一方では、消費市場も大きな成長を見せ、2007年の個人消費支出は1兆8,350億ドルに達し、日本の60%、アメリカの20%にも達しております。しかし、オリンピック終了後、現在の世界金融危機の影響を受け、経済的・社会的な停滞現象が出始めているように思えます。輸出の減少、企業倒産、就職難、農村の過疎化、経済格差の拡大、また国際社会から一定の評価を受けていた民族対話の停滞など、オリンピック開催前への回帰現象が起きている兆しもあります。

中国を見る場合、短期的動向と長期的動向の両面の動きに配慮することが重要ですが、改革開放以後のこれまでの中国を見る限り、マクロの経済的発展の基本的な方法は成功しているといえます。

しかし、その分、課題も大きくなっているように思われます。その根本的理由は、本来必要な国内改革のうち、まだ1つしか取り組まれていないためではないのでしょうか。つまり、必要な政治改革、経済改革、社会改革の3つの改革のうち、改革開放と言われる経済改革のみが着手され、経済成長という成果を上げてきたのですが、取り組まれるべき3つの改革のうち、残りの2つについては取り組みさえ十分ではないか、あるいは終わっていないのが実態です。

なお、私が申しました社会改革とは、社会的な公正競争機会の均等化、敗者復活戦、敗者復活を保証する社会、あるいは弱者救済、他人への配慮、他人への配慮とは、約20年前に、国際協同組合同盟(ICA)の会長であったマルコス(Lars Marcus)氏が提唱した考え方です。近代化する社会が経験する社会的な軋轢、これからを緩和するために、人々の間から草の根的に生起する社会運動のことを「社会改革」と申しております。

しかも、経済改革自体にも不十分さが残り、あるいはその突出が国家のアンバランス

スをもたらしていると思われます。そのアンバランスが、和諧社会の提唱、またはスローガンをも必要としている最も根本的な理由ではないかと思えます。

さらに、これらの3つの改革に加えて、国際社会における自らの姿勢についての改革をおこなうときにきていると思えます。すなわち、中国は国際社会における自らの位置付けの模索をおこなう時代は過ぎているにもかかわらず、例えば、WTOドーハ・ラウンドに見られるように、ときに発展途上国の代表として振る舞い、ときには政治的・軍事的な大国として振る舞い、またときには豊富な資金の出し手として振る舞うなど、世界に対する自らの位置付けが揺れ動く様子がみられます。

中国は、今後の国家の全体像をどのようなものにしようとしているのでしょうか。この点は必ずしも明瞭ではありません。将来を中国的な社会主義の建設に託すというだけでは、あまりにも抽象的・感覚的です。

この点は、いまや中国だけの問題だけではなく、世界、特に東アジアや東南アジアにとっても重大な問題になっています。中

国は自らの他国に対する影響の大きさ、そして他国からの影響がかつてないほど大きなものになっていることに、もっと敏感になるべきでしょう。昨今の世界金融危機は、中国にも影響を与えています。今後の動向は予断を許しません、社会の不安定要因になることは確かです。

今回は、これらを含め活発な討論がなされることをお願い申し上げます。本日は、このあと、ジャック・ホウ教授の基調講演があります。ついで総合セッションがおこなわれます。また、明日からは経済セッション、環境セッション、政治セッション、文化セッションの順に討論を進めてまいります。今回の国際シンポジウムが、皆さまにとって実り豊かなものになることを願っております。

なお、今回のシンポジウムの成果につきましては、事情が許すならば刊行委員会を設け、英文にて刊行することも検討したいと思います。その折には、報告者の方々にはご協力をよろしくお願い申し上げます。以上をもちまして、趣旨説明を終わります。どうもありがとうございました。

## 【 基調講演 】

## 「転換期における中国の改革—企業・市場・国家—」

ジャック・ホウ (Jack HOU) (カリフォルニア州立大学ロングビーチ校)

非常感谢各位，尤其是李老师刚才好像对我过度夸张的介绍。我非常荣幸有这个机会。我从来没有到过名古屋，但是闻名已久，从小就在历史地理当中听到过。所以当高桥老师邀请我的时候，我几乎只花了两秒钟就决定了。我是第一次参加这么多代表的会议，也是我第一次在日本演讲，应该是第一次正式的用中文演讲。我从1981年到美国读书就一直待在美国，从来没有真正的用中文做过学术演讲。如果我自己选择的话，宁可用英文演讲，因为有很多中文的词一下子换不过来，讲英文就方便多了。另外也是很新鲜的第一次就是，我有生以来第一次参加不是针对纯经济学的研讨会，所以这个也是一个相当有趣的挑战。因为这个原因，所以我的演讲我想把它讲的比较广泛，不要局限于纯经济学，不要都是数学模型，不要使各位都觉得乏味，我自己肯定也会打瞌睡。

我的题目如果各位看议程里面有三个完全不同的题目。刚刚开始的时候是讨论经济转型之间，市场、企业家跟政府所扮演的角色。后来我在准备PowerPoint的时候，我又把它改成了《纵观中国经济改革》。最后我把大纲送过来的时候，我又把它转换成了这次大会的主题。但是基本上内容是一直没有变的。首先我要向做同步翻译的几位同事道歉，因为我实在太忙，所以整个稿子没有事先准备好。我了解他们的压力。两年前，我们中国留美经济学会在上海开会的时候，有一个研究论坛讨论中国农村医疗的问题，全部是国内的学者专家，全部使用中文，但是

有几个西方学者想听，我是临时被迫做同步翻译。那一个半小时是我这辈子压力最大的一个半小时，我觉得那一个半小时我大概老了两三岁，所以我非常了解，向他们道歉！

针对高桥老师刚才讲的几个问题，我深有同感。譬如说，我一直认为中国经济改革当然占主导的位置，尤其是在早期。一直到96、98年以前，我所有的文章里面都强调经济改革优先，政治改革、社会改革可以暂缓一些。可是到了96、98年开始我的文章的论调就改了，我认为经济发展已经到了一个阶段，如果其他不能够配套跟上的话，会有危机的出现。因为我们做老师的，讲课很重要的就是要用一种让学生能马上抓到的方法。比如说，人上半身可以向前倾，你可以往前倾一个阶段，但是如果你的脚不跟上的话，你就会跌倒。所以中国早期的经济改革能往前倾，但是后来如果你脚不跟进的话，问题就会出现。当然，为什么中国政府现在要讨论创造和谐社会，问题就是出在社会已经不和谐。如果中国社会和谐的话，那么这个议题就不用讨论了。所以这就是刚才高桥老师讲的三个大方针，经济的改革做到了，但是政治、社会的改革还没有配套跟上，这是非常重要的一件事情。另外高桥老师刚才讲到一点我也很同意，就是中国在国际舞台上她是以什么姿态出现的，其中有一些摇摆不定，是无可置疑的。去年在法国第六届国际中国经济研讨会上，我有幸在闭幕式做演讲的时候，我就讲中国已经成为经济方面的大国，可是他还没有达到政治上的大国。作

为一个大国，在国家政治舞台上必须负起相当的责任，我认为中国必须要对自己的定位有所认识。但是如果从另外一个角度讲，西方国家对中国的认同也不够。今年六月在德国 Forum 2008 上面，我被邀请讲中国粮食安全问题，那个时候我说欧美国家过度快速的批评中国，而非常不愿意赞扬中国，我觉得这一点西方国家也要作检讨。如果对中国只有一味的批评，而对于他做对做好的不加称赞，那么你如何引导中国慢慢的转换成在世界上扮演一个重要的角色？我记得那时候前欧盟能源委员会的副委员长说我讲的那句话他会永远记得，他在开会时也会经常提醒欧洲的一些高级官员不能一味的指责。我在美国也感受到，美国有很多地方对中国又羡慕又怕，然后变得很快的就会批评中国，但又非常吝啬赞扬中国。这一点我觉得不光是美国的错误，其它西方国家对中国也有这样一个认识。这是刚才我听高桥老师演讲的时候的一些想法。

我开始是想以林毅夫的话为演讲的起点。林毅夫，我认为是在中国最有名、最具影响力的经济学家。毅夫现在是世界银行副行长兼总经济师，这个是在他当世行副行长之前讲的。两年前，他在来 UCLA（加州大学洛杉矶分校）演讲的时候，他认为中国可以持续 25 年的 7% 的经济增长。我们先停下来回头看一下。80 年代的时候中国曾经提出一个构想，中国希望在 2000 年的时候能够达到 1980 年真实 GDP 的 4 倍，那个其实就是 7% 的真实成长为国家目标。

我在美国讲宏观经济的时候，跟美国学生讲中国希望在 2000 年达到 1980 年真实 GDP 的 4 倍。我就问学生：“你们认为中国办到了没有？”美国学生根本就搞不清状况。我就说，严格的讲中国没有做到。为什么？因为中国在 1995 年，提早了 5 年就达到了这个水准，这个是转换成 9% 的真实增长。尤其是 1995 年以后，中国的真实成长速度更快，平均大概在 10%—11%，所以这三十年（1978—现在），中国的平均真实成长其是在 10%

左右，这个是历史上前所未有的。两年前毅夫来 UCLA 演讲的时候，提出中国可以持续 25 年的 7% 真实成长。那个时候在 UCLA 没有人相信。像我的几个同事 Harberger、Edwards 他们就问这个经济增长从哪里来？这个就是我今天想讲的，由这个地方入手，中国经济怎么增长？在座的各位专家其实不用我讲，你们大家或许大部分的人都会认同毅夫所讲的话，中国应该可以做到。但是我先从传统的教科书讲，传统的教科书是纯西方的观点。传统教科书讨论经济增长的主要来源有两个，第一个是资源数量的增加，劳动力的增加跟资本累积的增加、土地的增加；第二个来源是资源质量的增加。各位在这边教导学生，这边的各位学生你们在这边受教育都是在提高人力资本，这个就是资源质量的提升。当然中国的教育成长，大家有目共睹。在我们学校里面，那些从日本、台湾、香港、新加坡、中国国内到我们那里来读研究院的学生，我们所有的同事都异口同声的承认，他们对经济学的了解尤其是数学比美国学生要强很多。当然也有缺点。我们的教育比较缺乏启发式，所以很多东西我们会做、我们会算，但是缺少创新。记得我在研究所的时候，教我微观经济的老师是一个德国人，他把作业发下来，我在想他是不是发错了作业，这个作业好像跟上课没关系，不知道如何着手。在美国好多研究所，上课老师讲的是一套，你要去读通、延伸，然后应用到作业上面。这个作业跟上课讲的似乎没关系，因为他要你应用。然后我就不知该如何着手，但是跟我同伴的那个美国同学，他非常喜欢打球，经常回来衣服一脱掉在那边擦汗，“我们可以试这个”，一语惊醒梦中人。我有数学能力，你告诉我方向，我可以做出来。他看的出方向，但是没有数学底子，他不会做。所以我们这两个教育系统像“天残地缺”，如果能够综合就完美了。我们教育者应该思考如何把这两种结合起来，让学生有这个技术、能力，但是更有思考、创新，这就是我个人在美国教学多年的一个感想。



言归正传，从资源数量来讲，其实中国的资源在很多地方是相当有限的。我今年在德国演讲的时候，开宗明义就讲中国的粮食保障问题，因为这个很有意思。今年3月小麦价格涨的飞快上涨，我讲这个主题的时候，就提醒说，如果中国突然需要进口5%的小麦，那3月会怎么样？所以幸亏中国农业保障做得好。当然我也说中国用世界百分之七的可耕地，养活百分之二十几的人口，这个我不是专家，是看统计数字讲的。所以如果讲的不对，请下面专家多多包涵。我是看统计学这样讲的。这个是非常难做到的一件事，其实这也是中国对世界的贡献。世界对中国的成就需要有所认同。讲到资源数量，中国很多的钢铁是从巴西进口的，中国到巴西签了很多长期的矿物方面的合约。中国在非洲大量的投资开矿，这都是把资源的取得不只局限于自己国内，而是把资源的取得扩展到世界各方面。这是中国传统方面的，不能够只局限于国内，对于国外能够掌控的也是一个成长的方法。从一个图形的观点，我向各位保证这是唯一的图形。根本不是数学，我不打算用数学。左边的第一个图，里面的一个弧度是我们所谓的生产可能线，就是以现有的资源，现有的生产力、科技所能够最高达到的。这个是原来的生长可能线，资源取得可能的增加，资源品质的增加，使生产线外推，这个就是经济成长。这边两个可能，在A点，这个国家目前所选择的是以消费为主，而相对的投资有限，消费很大。投资是资本累积的重要管道，如果投资少，资本累积就少，那经济增长就有限。而相对下面这个国家，国内消费相对的低，可是投资方面非常的大，所以其经济增长就相对的快。有了这个基本观念以后，我们可以看出，譬如说，国内投资现在不光是政府的，不管是中央政府还是省级地方政府大力的固定资产投资，这个就趋向于B点。更何况我们不要忘了，中国是开发中国家，FDI 国外投资最大的受益国，2003年的时候甚至是世界第一大国，超过了美国，但是后来美国又反弹了。

所以在中国投资方面是很重要的。

刚才谈到了资源数量、资源质量。但那是从一个已经开发的国家观点看的，中国不止如此。中国基本上（如果从刚刚讲的话）不光是这个问题，中国现在目前是在生产可能线的里边，光是从里边走到生产线上，就可以成长相当久。而欧美国家包括日本已经在生产可能线上，只有资源数量的增加才能造成成长。而中国尚有未使用的资源，加上使用效率的提高，就是一个很大的增长数量。不要忘记，中国有很多隐藏性的失业，哪有五十岁就退休的？像我的堂弟，在安徽老家，已经下岗八、九年了。安徽是相当穷的，从南京到安徽，我就可以感觉到像是两个国家。所以这方面就是资源还没有使用，以及使用效率的提升，这就可以持续成长相当久的一段时间。

**空间性的经济发展。**刚才提到，中国这三十年经济发展主要是东部沿海。虽然这几年来开始讨论西部大开发，但中国的中部、东北、西南，还有很大的空间性的经济发展潜力，还没有做到。这个是很多洋人他们所不了解的。这又是一个很大、很长的经济发展来源。

**内需的提升。**刚才高桥教授已经提到，中国国内消费已经成长了很多。可是我们也知道国内消费水平仍然很低，这也是一个非常重要的持续经济成长的来源。当然这次中国受到美国经济不景气造成的冲击，之所以比一般人想象的大，其中很重要的原因是因为中国过度的依赖出口，而不是内需。这次世界经济的问题起源于美国，可是相对来讲，美国经济所受到的打击比欧盟及其他很多国家还要轻。为什么？就是因为国内需求。我昨天跟吴教授在从机场来的时候讨论，美国经济什么时候会复苏？我这个人一向比较乐观，心宽体胖，所以很多事情想的比较乐观。我认为快的话，美国明年八、九月份可能会复苏，甚至更快都有可能。因为我们都知道，在美国很重要是个人消费。随着对于新总统的期盼，如果奥巴马能够做得好，给

大家合理的认为有这个期盼，人民就会开始消费。如果这样的话，他的反弹可能会比大家想象中的要好。我可能是比较乐观。

另外一个很重要的成长来源就是**制度的相应改革**，我们这次大会的一个很重要的议题就是在讨论这种制度的改革。后面也会再大致的做一个讨论。制度的改革，我个人认为是非常重要的。今年9月在台湾的一次学术研讨会的时候，我也提到这个问题，所以我这里再做一个讨论。我认为中国已经到了一个经济改革的关键阶段，制度相应的改革是越来越重要。很多比较简单的改革都已经完成了，开始要做比较复杂、比较困难的决定。在我离开这个之前，我举一个例子。或许各位对这个有一定的了解，我是在美国的一个电视的节目上看到。我用这个例子来提醒洋人这个是他们所没有想到的。美国有一个节目，报道中国的一个国有企业生产洗衣机，他们接到很多抱怨，乡下农民在抱怨“这个机器不耐用，一直坏。”他们就派了工程师到农村去实地访问，看问题出在哪儿。结果他们发现农民在用洗衣机洗马铃薯（土豆）。那洗衣机当然会坏。可是那位工程师灵机一动，“有这个市场呀”。于是他们回去设计了一个洗马铃薯（土豆）的小机器。这个是洋人想都不会想到的。这个也是GDP。这个还是经常有折旧，需要换的，可持续的GDP来源。这个是教科书上都不会提的。我是用这个作为一个例子。这就是为什么我刚才讲到制度改革的问题，中国现在容易的都已经做了。

去年我们中国留美经济学会年会是在湖南长沙召开的。我因为是下任会长，所以在闭幕式的时候要发表一个演讲，讨论一下今年（就是我将当会长的时候）要针对的主题，我提出来的就是“中国经济发展的新阶段”。这其实代表了几个层面。第一个层面，从深圳到浦东、从浦东到滨海新区，沿海一线完成了。从这个观点来讲是一个新阶段。另外一个观点，改革三十年，回顾、检讨、展望。这个隐含的就是在问现在中国属于什么阶

段，我们还处在摸着石子过河的阶段吗？我们还处在黑猫、白猫都要的阶段吗？我们还处在让少数人先富起来的阶段吗？我们大家都知道，答案是否认的。从某个观点来讲，中国过河已经做到了，我们已经过河了。从现在开始我们是要如何消除黑猫，只要白猫，我们现在要讨论的是如何让大多数的人都富起来。去年我在长沙讲这些被人家批判，说我在反对邓小平。有人在公开的批判我，说我在反对邓小平思想。我就不相信，如果现在邓小平同志还活着，他会讲黑猫、白猫都要？我就不相信他还会讲我们让少数人先富起来，他绝对不会这么讲。这就是为什么我强调现在必须要了解处于什么阶段。所以今年演讲的时候，我就赶快改成在邓小平的领导之下、在江泽民同志的掌控之下、在胡锦涛同志的……。因为在美国待久了，尤其是在台湾出生的，很多这种政治上的拿捏，我不是很道地。所以经过那次教训，讲话就比较小心一点。这就是为什么我在去年那个闭幕式上讲中国经济发展新阶段是我们的主题。那个时候我给我们的会员，包括国内的很多学者下一个挑战：明年也就是今年在天津开会的时候，希望我们不是在讨论中国的问题在何处，而是在讨论中国如何解决所面对的问题。所以我们做了一个相当的创新，我们办了六个政策论坛，六个圆桌，这边大致列了一下这六个圆桌的题目。每个圆桌我们请4—6个专家，原则上是2—3个不同派系的看法的。如果6个人都是同一个派系，那就不是一个论坛。所以我们就刻意的找意见不一样的学者专家来做一个辩论、讨论，看看能不能用辩证的方法找出解决之道。当然这是我们第一次做，没有想象中的理想。有一两个做的不错，有的还是变成了半学术性的意见发表，而不是一个论坛。因为我原来的构想是希望这六个论坛能够得出一些好的结论、建议，汇总一下送给国内政府的相关机关，我们不敢说是政策的建言，只是提供一些可以考量的做法。我希望下任的会长王洪能够继续这个问题，像土地使用权与住

屋市场，我们中间很关心的是小产权问题，这个也是很重要的一件事。

第二个，我们讨论的问题是持续发展与社会保障是怎么能够必须并存的。当然这是和谐社会的基础问题所在，很重要的一个问题。中国长期以来过度的依赖出口，基本是用贸易换取经济成长的一种策略。我们现在这一次讨论就是说，这个策略第一个对不对？第二个，就算对的话，到什么程度，不能够过。因为从某一个观点来讲，我们平心静气讲，欧美国家有没有把污染工业出口到中国来？有！我第一次到天津、北京的时候，中午十二点可以抬头直接看太阳，有朋友说这是雾，怎么天天都是雾？我1月来、3月来、6月来，怎么每个月都是雾？这个就是空气污染。所以平衡在哪里？从某一个观点来讲就是黑猫、白猫问题。这也是黑猫、白猫问题之一。被遗忘的一群：三农。这次会议就要讨论三农问题，这个很重要。我写过几篇文章，我个人对于解决中国三农问题的一个意见。刚刚李老师乃至高老师一直说我是研究中国的所谓世界专家，没这回事。我只敢说我是对中国关心的，连学者都不敢自称，对中国关心有兴趣的一个学生。所以我写过很多文章，从英文的观点来讲，I am thinking outside of the box。我是在框架外面想，为什么在框架外面想？因为我人不在框架里边，我不是真正研究中国出身的。我是研究劳动经济，研究国家经济的，对经济史有兴趣的一名学者。毕业了以后，因为中国人对中国关心才开始研究中国，至于中国的很多细节我自己根本就不懂，所以我是在框架外看。从好听的观点来讲，我是在一个创新的框架外看。从比较难听的观点来讲，根本就不知道你在说什么，是胡扯。所以这个看你是从什么观念来讲。看这瓶水是半满还是半空，看你从什么观点去看。

我相当高兴的是我们讨论第五个主题：明日的工人。这个当然讨论到教育、人力资本，也是人口老化的问题。我们在这次会议上，可能是比较早的提出是不是要重新考量

“一胎化”。因为当劳动人数不够的时候，不是工厂加工就能够再生产出两百万工人，两百万工人得花十八年才能生产出来。不能等到需要的时候再开始讨论，现在是到了该讨论的时候了。所以我希望与会的学者，大家有什么意见互相讨论一下。我不敢讲我们现在该放弃一胎化，我绝对不敢讲这个，我只是说这个东西是需要考量的一件事。因为等到我们发现劳动力不够的时候，不是一年两年就可以生产出两百万、三百万、一千万劳动力。必须要提先考虑这个问题。我是台湾出身，所以对于台海两岸的问题也是相当关心。我们是4月开的会，那时台湾已经有所改变，所以也是不错。我们请来的主题演讲者之一，就是台湾前经建会执委薛老师来讨论这个问题。

在我们中国留美经济学会2008北美会议上，我们把议题针对在医疗、环保、贫富差距，当然这也是今年ICCS这次会议上所要讨论的问题之一。我主要是想说，毅夫所讲的中国可以再持续25年的7%真实成长，我觉得是相当可能的。但这是建立在一个很重要的先决条件之下，就是政治跟社会的稳定。这就是高老师所谈到的经济改革与政治、社会改革的配套。当然至少我个人认为中国政治在可见的未来是不可能出现危机的，社会问题上是不是能看到危机有非常多的观点。事实上早在今年4、5月份就已经出现非常多的问题了。当《劳动合同法》一通过，有很多小型的外资企业都撤了，连夜之间就关门不见了。这还是在整个美国金融危机出现之前，现在当然从某个观点来讲，几个负面的作用都结合在一起了。所以这个时机不是很好，中国有几个城市不是有很多示威，目前是局限于地方政府。他们很快的把拖欠的工资归还，给以安抚。只要中央政府站在一边，不要过度反应干预，我认为这个应该是可以控制，控制在局限于地方。中央政府绝对不能够过度干预，这个的确是很重要的一个问题。

我现在稍微转换一下方向，比较离开中

国经济成长、和谐社会这些问题。讨论一个比较趋向于经济史方面的问题，事实上是我很喜欢的一个主题。中国经济发展的成功，这是有目共睹的事实，刚刚讲过三十年来10%的真实成长。如果没有事实证明在这里，三十年前讲这个话我就不相信欧美的经济学家有几个人会相信，不可能！现在他们相信，为什么？因为已经做到了，这是事实。而相对的如果你看俄国或者其他前社会主义国家，如波兰、匈牙利，他们所遇到的经济困难。我们经常就会问，他们是否可以学习中国？这个就是我讲的，稍微转换一下讨论的议题。如果我们大家看所发生的事实，俄国是使用激进，英文可以叫“Big Bang”，或者叫“休克”这种方法。而中国是邓小平同志讲的“摸着石子过河”，这个就是非常好的一个写照，一个小心谨慎的做法。在演讲上面都是把事情过度的简单化了。如果俄国缓进的话，他是否可以达到中国经济发展的速度？如果俄国缓进的话，他是否可以避免经济方面的负面后果？我个人认为是“没办法”。当然从某一个观点来讲，这个是没有太大意义的问题。这就好像问如果苏格拉底当初在Delium战役的时候死了，西方文化会变成什么样子？当时希腊联盟跟波斯长达快30年的战役中，Delium战役是一个非常重要的战役，雅典惨败，雅典的军队几乎全军覆没，只有少数生还逃出来，中间包括了苏格拉底。如果苏格拉底死了，那西方文化会变成什么样子？换一个观点来讲，当初孔子周游列国被人家误认为是阳货，困于垓下差点没饿死，如果孔子饿死在那里呢？那咱们中国文化，乃至日本文化会演变成什么？这其实上是一个无聊的问题。可是经常会引起大家的讨论。所以我就用这个来作为一个出发点。

凡是受过西方新古典学派教育的经济学家，他们很容易被两件事情误导。第一个是认为市场永远存在，因为从数学的模型看，供需、市场结构是存在的。第二个被误导的是所有的调整是瞬间可以转变的，从数学的

观点来讲，变数一变，马上可以导出新的价格，新的产量应该是什么。但是如果你试试看的话，事情不是那么简单，如果我们从中国1978年经济改革乃至俄国90年代中期开始的时候，市场根本不存在。市场不存在的话，他绝对不可能是一夜之间就能够创造出来的。所以邓小平“摸着石子”缓进，一步一步的，是让市场建立起来很重要的一个机制。而相对的，俄国的激进没有给市场发展的机会，当然这个是把事情过度的简化了。另外我们也都知道，就算市场机能存在，做一个重大的调整、重大的改革的时候，最快也要需要几年时间，一代、两代，甚至十几二十年才能够真正的落实。像各位在座的我这个年龄的或者比我更年长的学者们，你们对于那个时候公社的生活就算没有经历过，也从父母那听过。可是现在在读本科生的学生，你跟他讲当初北大荒，当初下放劳改的事情，他们觉得你是在讲神话。因为他们这一代，这一方面的改革已经改了，讲这些他们不太了解，会觉得好像是天方夜谭。我们在台湾有一门必修课《大陆问题研究》，里面当然会讨论这个，我也知道讨论是负面比较夸张的，台湾是有政治目的。所以我读他的时候，也是稍微采取一个相对保留的态度，可是我们自己也知道那个时候文革所经历的苦。现在回想起来，我觉得一些年长的学者，心里头会有一个感慨。所以这个转变不是那么快就可以调整的。比如说美国，我刚到美国的时候，如果对我讲美国那些对穷人的福利要改革，我认为已经根深蒂固，变成美国人民生活的一部分，很可能是改不掉的。但是美国改了，花了快10年时间。像美国现在穷人享受社会福利只有五年，过去可以几代的。“福利妈妈”生下的孩子继续受福利，可以世代。现在终身只能够享受五年的福利救济，这是克林顿当总统的时候颁布的法律，现在慢慢已经变成美国接受的，连民主党也接受了。当然这个很有意思，如果老布什当初竞选连任成功，我就不信这个福利改革能够推行下去。因为民主党会极力的反对，可

克林顿是民主党的，他主导民主党，其反对声浪相对的就降低。共和党赞成，所以就通过了。就好像当初美国跟中国建交，那时候是尼克松主导的。如果换一个共和党的总统，那么高华德（极端右派）可能会杀到白宫去，把总统打一顿。可是尼克松跟他是同党，也是共和党，他再不高兴也没办法。就像美国有一句话“He is a S. O. B., but he is my S. O. B.”（“他是一个混账，可是他是我的混账”）。就没办法。

言归正传，刚刚讨论到受新古典学派数学模型熏陶下的经济学家总认为市场机能永远存在、所有的调整瞬间可以完成。可是仔细想一下，这根本是与事实违背的。我在好多演讲里面尤其是在美国、欧洲演讲的时候，曾经提到从大自然的眼光看，他一向是不喜欢大的突变。我经常开玩笑，这个在美国大家都听得懂，这儿我就不太清楚了。各位知道有一种突变是白色的老虎，当初源自于印度。现在世界上白色老虎最大的集中地是在哪里？拉斯维加斯。因为拉斯维加斯有两个魔术师，他们收养了一批，自己在那边繁殖。如果不是这两个魔术师的话，白老虎在大自然中早就绝种了。各位想想看，他是白色，没有保护色，猎物很远就能看到他。他没有保护色，是白色，猎人要杀他也容易，他是白色、稀有，猎人更要杀他。如果在大自然的话，大自然早就让他绝种了。所以大自然一向不喜欢大的突变，当然从某一个观点来讲，所谓的演化是一群小突变的结合。所以我讲的是小突变大自然接受，大突变大自然是淘汰的。从某一个观点来讲，当初列宁的革命可以视为一种突变，俄国 90 年代激进的改革其实也是一种大突变，所以从自然演化的观点来讲，自然界对这个一向不是很容易接受。我在西方演讲的时候，经常用这个来作为一个开场白，来讨论中国跟俄国的一个比较。中国跟俄国不仅仅是激进与缓进的问题，另外一个常常被大家所提到的是改革顺序的问题。这个问题，Jeffrey Sachs 和我们中国留美经济学会的一个资深会员胡永

泰，他们的文章认为是一个出发点 (Endowment) 的问题。因为在俄国经济改革开始的时候，85%的劳动力就业于非农业部门，因为已经相当的工业化了。而在 78 年，中国非农业人口只有 18%，根据 Jeffrey Sachs 跟胡永泰的数据，只有 18%。所以中国在农业改革方面有相当大的可以运作的空间，而相对的俄国没有办法做到，因为已经过度工业化，农业可以做的有限。我个人认为没有那么简单，从某一个观点来说，中国没有那么聪明，有一点误打误撞，变成了从经济学眼光来讲，正确的改革的一个顺序。我的一个老师费景汉跟他的同事 Gus Ranis，提出的 Fei-Ranis 双元化经济发展理论，就提到在经济发展中农业扮演的是一个历史性的角色，粮食生产必须提升到某一个程度，让粮食剩余足以养活非农业人口的时候才能够开始讨论工业化，如果生产出来的粮食光养农民都不够的话，工业化不用谈。必须能够生产足够的粮食，能够释放出农民，能够养活他们不必种田也可以吃的饱。工业革命就是这样，这些农民进入城市作为工业化的基础劳动力。农民要足够的富有，能够购买很多工业产品，这也是他的历史责任之一，等等。他要足够的富有，能够提供一些储蓄，这是过度简化费老师跟 Ranis 双元化经济的一个理念，所以农业扮演一个很重要的角色。中国当初的包产到户这样一系列下来，让农业部门生产出来的粮食比过去提高了，用的劳动力比过去少，释放出农民到城市，很合乎他们讨论的这个问题。当然相对的俄国，只有 15%是在农业，这方面可能就没有办法做。可是我认为中国根本不是读了费老师的理论而有这个策略。我写过一篇文章，跟我合写的是我以前的一个学生，现在在匹兹堡大学。我们的文章讨论，从历史的观点看，中国有两次大的粮荒。文革第一年生产还好，可是随着红卫兵运动的发展，很多生产得停下来学习，很多工作停顿，化肥、煤没办法运，为什么没办法运？红卫兵大串联。火车结构本来就不是很健全，几百万的红卫兵要到北

京大串联使很多的运输都停顿。计划经济之下，很多重要的生产资源没办法输送，所以到文革的第二年，粮食生产不够。这个其实是造成林彪、周恩来派系斗争的一个重要问题，林彪认为有些资源应该放在国防，防止苏联。周恩来比较务实，认为需要解决粮食问题。当然我们知道那个时候林彪是已经定为接班人，可是毛主席后来是站在周恩来这边。所以革了几年，庐山会议上，林彪不是意图夺权吗？后来据说飞机出问题坠机的吗？据说，我朋友说很有意思，那飞机旁边有一个大洞，那视为机器故障，我们这个就不提了。中央为了感谢那个时候的军区司令跟地方省长们没有挺林彪，把部分的自主权下放。而各位想想，如果你是省长，你是地方的重要干部，你有这个权的话，你会把资源放在农民身上还是放在都市身上？显而易见是放在都市身上，造成了第二次的粮荒。因为这个问题，所以毛主席乃至中国才采取了一个相当大的政策改变。没有多久就开始乒乓外交，对美国示好。乒乓外交访问了几个地方，美国、加拿大、阿根廷、澳大利亚，全部是重要的农业生产国。70年代中期，中国跟日本签订了十年长期贸易条约，中国是用石油换日本的化肥科技。日本为什么接受中国的石油？中国石油的品质没有阿拉伯的品质好，可是日本刚刚吃过 OPEC 的大亏，要分散石油的来源。70年代末期，中国进口了整个工厂，不是进口机器而是整个工厂买下来拆掉，一个船一个船的运到中国再组装起来，然后欧美国家的科技人员也是买了半年过来。其中绝大部分的工厂全部是 ammonia (氨)，60% 是 ammonia 工厂。ammonia 是生产化肥的最基本的材料，所以这一连串的迹象显示都是为了农业问题、粮食问题。包含安徽包产到户小型的试验，走了几年突然回头一看，好像有一些成果，78 年才开始正式的推行。是大致的这样一个思路。78、79 年那个时候通过的决议，题目其实跟当初刘少奇、邓小平说的那个改革是同样的，内容不太一样，可是整个标题是同样的一个标

题，这个我觉得也是很有趣的一个问题。所以从这个观点看来，中国可能是比较幸运。

但是俄国的劣势不止于此。中国从 1948 年解放到 1956 年，基本上私营企业是存在的，虽然相对的慢慢在消解，可是基本上是公私并存的。56 年以后公社建立，私有企业才逐渐不见的。然后三面红旗、大跃进之后造成的三年大饥荒的时候，邓小平策略性的转换，有些类似于 78、79 年经改的一些措施，然后从文革到 73、74、75、76，不管是用哪一个年度看，中国基本上在计划经济体制下真正的讲严格说来没有二十年。而相对的从一个简单的观点看，俄国 1917 年革命一直到 1990 年代中期，八十年的计划经济。所以中国当初的那些企业家，只经过二十年。中国经济改革的时候，这些企业仍然还存在。俄国的企业家经过八十年都已经老死了。所以俄国剩下的有企业家精神的是一些贪官污吏和黑社会，基本上是这两类人有企业家精神。我看了一个世界银行的统计数字，他们估算，俄国 70% 的金融业直接或间接跟黑社会有关，比较正统的传统企业家已经死了，只剩这些比较有经验的。今年 8 月我代表中国留美经济学会参加欧洲的比较经济学会年会时，跟他们讨论为什么俄国莫斯科是世界上百万富翁比例最高的地方。莫斯科非常贵，我住的一个三星的旅馆，两颗星的服务，一个晚上 180 美金，那还是大会打折了以后。有的房间需要用公共厕所，还要一个晚上 180 块。他的物价之高吓死我了。那为什么会有这么多富有的人？他说这些百万富翁基本上是过去在政府部门管工业的官员。比如说一个炼钢厂经营不善，要改成私有化，这个政府官员用不到一年的营业额的钱买下这个工厂。不要忘记这个工厂经营不善，所以他所谓的不到一年的营业额其实只是他生产潜力的 10%。用不到 10% 的钱贷款买来，一年之内就还清，这就是俄国百万富翁的来源。这是在俄国的一些同事讲解给我的。

言归正传，沙皇亚历山大二世 1861 年废除了俄国的农奴，解放了三分之一的俄国人

口。他又颁布农民（解放出来的农奴）可以向地主买土地，并没有很落实，基本上只有25%达到了。更糟的是这25%里面绝大部分是建立在公社的架构之下，作为土地的使用生产，不是个人决定的，是整个村子决定的，基本上是个公社。真正私人决定的土地，只占8.48%。我讲这个的意思就是说，俄国的农民基本上没有企业家精神。我看了一个报导，如果你过黑龙江到西伯利亚，可以看到有很多大的农田做的很好，那不是俄国人在做，那是咱们中国人在做。中国的农民有企业家精神。为什么？中国从周朝以来基本上是一个井田制度，土地是国有的。拿唐朝来讲，男人16岁及冠，政府给100亩土地，女人及笄14岁，60亩土地。我在西方讲课的时候，我就讲咱们中国多先进，虽然女人拿的还是比男人少，可是不要忘了那个时候在欧洲女人还是财产，女人哪有自主权？哪里能够领土地？根本就是男人的财产。那咱们中国，女人还有60亩地。多先进！在国外讲学的时候，我刻意的让他们知道咱们中国有多先进。不仅是现在，先进了几千年。一直到唐朝都是这样，可是后来中国人口跟土地已经无法维持这个传统。宋朝开始，王安石变法，土地开始私有。在井田制度之下，缴税不是交钱，缴税是交货，农民是交稻子，政府官员的薪水也就是稻子。这个政府官员是二千石，一年的薪水就是二千石稻子。所以今天跟爱知大学的一些老师谈得时候，他们说日本也是这个样子。当然了，因为日本基本上是和唐朝学习挂钩的。如果他们跟宋朝学习挂钩的话，可能日本的情形也就不一样了。到了宋朝的时候中国缴税，已经开始交钱。在座的各位尤其是年轻的朋友，你们有没有看迪斯奈的一个卡通《木兰》？各位有没有想过，为什么卡通里面政府官员到村子拿一个状子叫名字？缴税。因为花家是兵户，平时政府给他们粮食等于给他们薪水，打仗他们要去交税。所以花木兰从军的时候，她是带着自己的马、自己的盔甲、自己的兵器，她是去交税。这个就是井田制度下的一

个制度。中国从宋朝开始废除了这个制度，开始交现金。这个造成过去交税都是交稻子的，北方稻米多得是。这些官员拿到了这些米，两千石，天天二十四小时吃也吃不完两千石，所以拿到市场上去卖。可是到了宋朝不再交这个税了，北方没有稻子，所以北方人需要吃稻子的时候，必须由长程的谷商从北方一直到江南买米。他身上如果带了三百两银子，又重又危险，于是钱庄、银票出现了。农民现在不是交稻子，所以他不必要种稻子。农民从宋朝开始就可以用土地的比较利益来生产对他来讲最有利润的农作物。中国从宋代一千年的历史。这些长程谷商到江南买了稻米，运回去也是一个很烦恼的事情，运输业、大运河，沿途的吃、住、商旅，商业的兴起，这个是中国宋朝开始的。一千年！跟前面讲的俄国亚历山大沙皇二世才开始改革是差太多的。所以中国当初包产到户很多发展的很快。俄国就算他想学也没有这个软件。

另外还有一点。我对经济史是相当感兴趣的。中国宋朝其实是非常重要的，从一个军事的观点，宋朝大概是中国最弱的王朝，可是他的重要性远比大家想象的大。刚刚提到的井田制度的废除，让中国农民建立了一个企业家的精神。北宋亡了之后，很多士家南迁，过去很多读书人是上流社会的，地主就是光读书、收地租。可是北宋亡了，他们南迁的时候钱和金银珠宝可以带着，可是土地不能带。永续的地租没有了，带的金银财宝是有限的，是可能会用完的，所以有部分的人开始从商。所以那个时候慢慢的岳麓书院的出现，也使儒家思想慢慢的进入民间。为什么现在中国的商人好多还有很多的座右铭？“苟日新、日日新”等等。乃至日本的大的株式会社还是定期的请汉学家讲解儒家思想给他们的高级部门主管。就是因为儒家思想南宋开始深入民间，而不再是统治阶级上层社会的一个专利。还有一个很重要的，从宋朝开始尤其是南宋，中国海洋业开始发达，我在台湾甚至美国看到有一批考古学家

认为，发现美洲可能是中国人，当然维津人是有这个可能。但是因为在加州沿海发现很多庞大的圆石头，中间是一个洞，非常庞大，不知道干什么。早期的考古学家认为这是印第安人对大自然崇拜的一种宗教用品，可是中国宋代远洋的船的锚就是这个圆的、中空的大石头，但在加州沿海发现这个，所以有一批美国的考古学家就在问这个会不会是中国宋朝的船过来的？我不是这方面的专家，我是把它提出来作为大家的一个考量。当然宋朝以后乃至于到现代，这个也是很重要的差别，中国在海外的华人人数很大，而且经济底子都不错。不见得比印度人多，可是我们华侨的生活水准比印度人高。更何况把钱送回老家的中国人比印度人多很多。各位想一下，尤其在80年代末90年代初，中国外资进来最大的区是哪里？香港。然后台湾第二或第三，那个时候算是海外华人。这个就是一个很大的写照。因为我是台湾出生，所以我爱说台湾其实是最大的。因为香港的很多港资其实是国有企业出去转一圈再回来，以港资的身份回来能够拿到优惠。所以很多港资不是真正的港资，是国有企业出去转了一圈回来。台湾在国内的投资其实比统计数字低，因为台湾到中国投资需要政府同意，法律规定需要政府同意，所以很多大的企业，包括王永庆在内，他在国内有一些投资，不是用王永庆在台湾的公司名义出去，而是用王永庆在美国休斯顿的分公司，用那个名义进去的，其实基本上是台资，可是不是以台资的身份进去的。这个大致提一下，因为我写过几篇文章讨论台商在中国投资的事情，这个是大致拿来借用一下。

接下来我要讨论的是，政府在经济改革中所扮演的角色。从历史上看，不管是古埃及，不管是希腊的联盟，不管是泛罗马帝国乃至于比较近代的重商主义之下的西班牙、法国、葡萄牙、英国。重商主义是经济思想，重商主义体现在政治上的就是殖民地主义，这些都是政府干预的。所以政府在经济中始终是扮演着很重要的角色。所谓政府应该退

出，让市场主导，这是非常短暂、非常近的一些思想。我长期认为，我刚才也讲过，一直到96年乃至于98年我始终认为中国应该是经济改革为主，政治、社会可以暂时延后。因为我认为在经济改革的时候，每一个人都想先跑，你需要有一个强有力的中央政府，就像是交通警察一样：“停！”、“走！”、“停！”、“走！”。或者是一个大交响乐团，每一个音乐家都在演奏他的曲子就乱了，要有一个指挥家，这就是政府扮的角色。中国基本上有这种形态。所以我认为在经济改革初期，政府所扮演的角色是非常重要的。从某一个观点来讲，就好像一个妇女怀孕的时候，她不一定需要到妇产科医生那里去做检查。妇女在生产小孩的时候，也不一定需要妇产科医生在场。小孩子生出来的时候，他也不一定要有小儿科医生照顾。可是如果有的话，从某种意义上说，对他的长期健康比较有利。一个国家的诞生，经济改革有如医生般的重要。没有医生，他可能还是可以生的，可是他的失败率可能比较高，就算成功的话，他的组织可能较差。在中国改革的时候，中央政府乃至于省级政府扮演着相当重要的一个角色。如果我们再退一步看，不再看中国的经济改革而看现在的问题，从一个市场经济学者一辈子受新古典学派市场经济学教育的一个经济学者的观点，我们一向认为应该让市场机能调节。但是即使在这次经济危机之前，我个人的意见始终认为，小的乃至于中型的问题政府不要干预，让市场消化让市场解决，可是真正大问题的时候，绝大部分的新古典学派经济学家还是再一次的依靠国家。感冒咳嗽到药房买咳嗽药、买个感冒药吃吃就没事了。你心脏病发作，发现你有癌症，我就不信到药房去买个药吃吃就好。所以你那个时候的观点，医生是不是就跟神一样？我想大概现在美国的各大企业都会把目光看向美国联邦政府。这个不仅对中国经济改革，乃至于现代也是非常重要的，非常影响深远的一个问题。

**制度改革与传输成本。**前面提到，中国



的经济制度改革差不多已经做完了。我刚才不是客套的说我不是中国专家,我真的不是,我是对中国很有兴趣,对中国非常关心的一个学者。或许不应该用体制,应该用制度。因为有人提醒我,体制改革,尤其在中央政府的观点来讲不是一个很好的词语。严格讲起来,我想讲制度改革,体制改革是比较麻烦的事情。所以制度跟体制有一点敏感,我当初犯过这个错误,被国内的朋友警告过。我今年写了一篇文章,应该年底会在《亚太管理论丛》上发表,我提出一个概念叫做“传输成本”。我们在经济学上最早期的生产成本,严格讲起来是 transformation cost。是如何把塑胶、水转换成一瓶水,把粗的资源转换成一瓶水。这个生产成本叫做 transformation 成本,后来又加了运输成本, transportation cost, 后来诺贝尔奖得主芝加哥大学的老师 Coase 提出了 transaction cost, 交易成本。我提出了一个概念是传输成本,为了要保持传统,所以英文用了 transmission cost, Transformation transportation transaction, 一体相承。我想讨论的是制度改革,这是使生产成本改变很重要的一个因子。这个跟其他前面提到的成本不一样,前面提到的成本都是正的,也就是说都是正的成本。传输成本有可能是负的。譬如说最明显最简单的例子,秦始皇统一天下,同书、同文、同轨,统一度量衡,这个是制度改革,使生产成本大幅下降,这个就是我讲的负的传输成本。制度的改革可以使生产成本下降,这是我提出的主要概念,当然跟中国经济史有一定关系。也跟中国这三十年的经济改革有关系,制度传输成本,是相当重要的一个成分。现在美国对于很多企业大量的解救,不是免费的给,而等于政府是大股东,当然政府的很多管制是会增加。这个管制,从某一个观点来讲,是进行政策调整,使成本上升,但是他降低了风险,降低风险也可以视为一种负的传输成本。所以现在中国面临很多刻不容缓的制度改革,譬如说健康保险的问题,老人退休的问题,这

些改革都会有相当的传输成本好处出现,所以我觉得这个是我们应该研究讨论的重要方向之一。

我最后要讨论的是市场经济的缺陷。这是我们都知道的,尤其是这次金融危机给我们的教训。可是基本上市场经济绝对比计划经济有效率,这个是大概不会有人反对。而我们从新古典学派看,自由经济、自由竞争是最有效率的,这个也是大家没有争议的。至于说,市场机能是不是健全等等,前面我已经提过了,这个我不打算讨论了。我这边提出的就是讲,中国得朝西方自由经济思想这个方向搞。我刚才讲的制度改革,也是一步一步的政府要慢慢退出经济干预,把制度建立好。但西方自由经济思想家认为,政府应该像一个安全守夜员一样,保护制度的安全、财产权,确保契约合同的执行,而不再是干预,这个是自由经济的一个基本概念。我这边提到的,《史记》上有记载:“网疏而民富”。各位如果去读《史记》,司马迁所描述的汉朝的富裕,他讲汉朝稻谷堆积如山,任他风吹雨打、腐烂。不要忘了,这个稻子是什么?是税收。政府税收多到富裕的没有地方放,放在外面让他烂。政府有钱,社会富裕。司马迁写汉朝初年如果到乡下,可以看到成群的马。在城市里边每一家门口都有绑马的木桩,这个是代表什么?富有!因为汉朝初年马贵。汉高祖刘邦打仗是骑牛的,打仗用不起马。所以司马迁写描述汉朝的富裕。就好像说名古屋每一家车库门口都停着一辆 Cadillac, 一辆 Lexus, 他是在描述富裕。他要讨论一下政府那个时候的做法是什么,结论是“网疏而民富”。“网”,我们可以把它视为政府的管理。“网疏”,就是政府的管理松散,没有太多的干预,所以人民富裕。这个是非常好的自由经济的例子,我在美国讲经济史的时候,我那个图形里面就会有一个问亚当·斯密的思想源自于何处?中间就有一个是中国,然后用虚线引过来,我不敢用实线,因为他没说,我是猜想。虚线,这边是一个伏笔。这是我最后一个幻

幻灯片：“十之二与 12”。大家一看可能不知道是什么意思。《史记》中司马迁记载，王子 20% 的税收要上缴国王，公侯 20% 的封邑收的钱要上缴王子。他列了一二十项行业，每一个行业都是十之二、十之二、十之二、twenty percent。他的结论是，任何行业不能够给我十之二的报酬不值得我做。从经济学的观点，这个代表会计利润 20%，每一个行业，每一个企业会计利润 20%。换句话说，经济利润为零的一般均衡，因为每一个都是 twenty percent，你不干这一行，干那一行，也只能赚 twenty percent。你的机会成本去掉以后，从会计利润（毛利润）里头，把机会成本（干别的行业能够赚的钱）去掉，真正利润为零。换句话说，所有的资源分配已经达到最有效了。不要忘了，《史记》比亚当·斯密早了两千年。这就是为什么我怀疑

亚当·斯密可能读过中国书。因为在《国富论》里头写“譬如说中国古代利率为 12%”。12% 哪里来的？因为当初耶稣会他们把中国的重要著作翻译成拉丁文的时候，他们不太懂中国的文法，“十之二”翻译成了 12。我觉得这就是为什么亚当·斯密认为中国古代利率是 12%，这是个错误造成的。读过经济思想史的人都知道，亚当·斯密跟 Francois Quesnay 重农学派的始祖，两个人既是师生又是朋友。Quesnay 是出名的中国迷（他的外号是“欧洲孔子”），所以亚当·斯密可能间接地从那里得到了这个概念。我刚刚讲的，中国在唐朝女人就有 60 亩地，中国可是很先进的。我每次讲这个的时候，国内的学者，尤其是在教室门口的学生就围了一堆，有些人听完以后突然就把头抬得比较高了。民族自信心。

## シンポジウム報告

## 【 総合セッション 】 「中国をめぐる開発と和諧社会－和諧は可能か－」

### パネルディスカッション

○座長（高橋） では、ただいまから総合セッションを始めます。私は進行役を務めます高橋です。演壇にいらっしゃる方々のご紹介を簡単にいたします。私から順次、所属のセッションとお名前、そして所属機関を申し上げます。

まず私のすぐ隣です。経済セッションの代表として、川井伸一先生です。愛知大学経営学部教授、ならびに国際中国学研究センターの運営委員であります。続きまして、同じく経済セッション代表のルー・ディン（LU Ding）先生です。現在は、カナダのフレージャーバレーという有名な大学におられます。

続きまして、3人目です。環境セッション代表の藤田佳久（よしひさ）先生です。愛知大学文学部の教授で、同じく ICCS の運営委員です。同じく環境セッション代表の宋献方（SONG Xianfang）先生、中国科学院の地理学・資源研究所の教授です。

次に、政治セッション代表の加々美光行（かがみ・みつゆき）先生、愛知大学の現代中国学部教授で、同じく ICCS の運営委員です。前所長でもあります。同じく政治セッション代表の許紀霖（XU Jilin）先生です。華東師範大学の教授です。

続きまして文化セッション代表の周星（ZHOU Xing）先生です。愛知大学国際コミュニケーション学部教授、同じく ICCS の運営委員です。最後になりますが、文化セッション代表の張海洋（ZHANG Haiyang）先生、中央民族大学中国少数民族研究センター主任、民族学社会学学院教授です。

以上の8名により総合セッションを進めます。総合セッションの内容については、

ただいまジャック・ホウ先生の大変素晴らしいご講演がありました。本来、1時間で十分であると、ご本人がおっしゃっていたのですが、2時間まで延ばして、あらゆるところへアドリブで演出していただいて、大変素晴らしい内容でした。私自身も質問したかったのですが、時間の都合でできませんでした。また機会がありましたら質問をしたいと思います。

ジャック・ホウ先生のお話も含めまして、今回のシンポジウムの大きなテーマであります「和諧」と「開発」に関しての総合的なディスカッションになるわけですが、概ね進め方としましては、まずパネリストの先生方に、お一人8分程度で、それぞれの専門分野から見た現在の中国における和諧の現状評価、ご自身のお考えになる「和諧」の意味も含めて、どのようにそれを受け止めていらっしゃるのか。また、意味をどのようにとらえていらっしゃるのかということも含めて、現段階における和諧の到達が、どの程度まで進んでいるのか、あるいはどうなのかということを中心とした現状評価を伺います。これが1点目の発言の内容です。

2点目は、3日間のシンポジウムを通して、私たちがディスカッションをしようとしているテーマに関して、どのような目標を持つべきであるかということを含めてお話いただければ、大変ありがたいと思っております。

時間の都合もありますので、では早速始めたいと思います。そしてその後、皆さま方も含めて、会場と一体となった討論をしてまいりたいと思います。

私たちは、たまたまここに座っております

すが、できれば一緒にいろいろなことを議論して、そして会場のなかから1つの議論の場を設けていきたいと思っておりますので、ぜひ活発なご質問、ないしはご意見をお願いしたいと存じます。

○川井 愛知大学の川井でございます。私からは主に評価にかかわるといよりも、この和諧社会というテーマに対して、どのような視点、アプローチが考えられるのか、経済を中心に示してみたいと思います。

最初のこの中国共産党中央委員会の決定については、皆様は既にご存じでしょうから、確認するだけに留めます。現状評価については、このようにまとめることができると思います。すなわち、全体的には調和しているが、調和に影響を及ぼすような矛盾と問題も少なからず存在しているということです。

この場合、調和か、そうでないかという問題は、大変複雑な問題ですが、要するに何を基準に設定するのか。そして、それぞれの基準から実際のレベルをどのように評価するのかという問題だろうと思います。これについては、まだ私自身の考えは十分なものではありません。これから勉強したいと思います。

目標については、2020年までに高い水準の小康社会の全面的な建設という場合、やはりこのへんのポイントは果たして実行できるかどうか、目標は達成できるかどうかという問題、これもこれからの議論の1つのテーマであろうと思います。

決定のなかに示されている問題点、矛盾点を列記すると、このような論点が明記されています。これは先ほど高橋所長が紹介したのもでもあります。1番から6番、どれを見ても、やはり、経済問題にいずれも直接・間接に関連している問題です。それが第1点。

第2点は、これらのような問題点の相互関係です。もしくは相互の依存関係。これをどのように見るかということは、やはり1つの検討すべき課題であろうと思います。この問題点が、中国社会全体のなかでどのようなウエイトを占めるのかという問題です。これも大変重要な問題であろうと思います。これもこれから検討していければと期待しております。

そのような現状の論点を踏まえて、この間の中国において、いわば市場経済システムという観点からいろいろな論点が既にさまざまな人から提起されています。そのような経済システムの論点から和諧社会をとらえた場合に、どのような論点があり得るのでしょうか。また、どのように見ることができのでしょうか。

## 2 中国市場経済システムの論点

論点	「新自由主義者」	「新左派」	「和谐社会」論
効率 vs. 公平	効率性を重視 機会の平等	公平・平等を重視 結果平等も配慮	効率+公平 成長+分配
市場 vs. 政府	市場信頼 小政府 政府の失敗	市場不信 大政府 市場の失敗	市場+政府マクロコントロール
民主化	民主化積極的 利害関係者の参加	民主化の制限 政府の調整	党指導の下での民主化
グローバル化・外資導入 不公平の原因と処方箋	賛成・メリット 旧体制・政府介入の弊害 市場化・自由化	制限・デメリット 市場化自体に問題 政府機能強化	外資との協調・利用 総合的対策

ここでの主要な論点は、明日の経済セッション以降の各セッションで必ず出される論点だと思います。1つの論点は、効率と公平の関連、バランスをどのように取るかということです。これに関して、中国においては、いろいろな内部の論争、議論がパネルにお示しのようにあるわけです。一方は効率を重視する意見があり、他方では公平をより重視すべきであるとの意見がある。この効率と公平という論点は決して二者対立の関係ではなくて、実際に両方必要であると思います。その場合に、どのような位置付け、ないしは優先順位をとるかということは、重要な問題だろうと思います。

第2の論点は、市場経済に対して、政府はいかにかかわるべきか、という問題についてですが、中国ではいろいろな大論争があります。したがって、「調和社会」「和谐社会」について、この観点からどのように考えられるでしょうか。

民主化、グローバル化、ないしは外資の導入についても同様です。不公平の原因やその処方箋についても、ここに示したような論争があります。かなり単純化した図表ですが、単純化ゆえに論点が明確に出るということです。要するに、どちらか一方だけを追求すればいいというわけではなく、両方の視点が必要だろうと思います。

最後になりますが、これからの考慮すべ

き点として、経済セッションとしては、この第1点である中国経済の格差、矛盾の要因およびメカニズム、その矛盾を解決する処方箋としてはどのようなものがあるのかという点です。国内版 FTA（自由貿易協定）とか、雁行型形態、ODA（政府開発援助）などの論点は、ある私の知り合いが言っている興味深い議論なのです。

### 3 考慮すべき視点 シンポの検討課題

- 1 中国経済の格差矛盾の要因・メカニズム  
処方箋 国内版(FTA、雁行形態、ODA)
- 2 他国の開発経験からみた比較視点  
アジアの経験(権威主義開発体制)
- 3 経済と環境の共生  
CO<sub>2</sub>削減、水、リサイクル
- 4 利害関係の調整システム  
一党支配のもとでの利益主体間の調整
- 5 経済とモラル コンプライアンス、社会的責任

FTA とは、要するに国内のバリアーを自由化することで、財の移動を自由化することです。雁行型形態とは、沿海地域から内地のほうへ直接投資、企業を誘致しようということ。ODA は、財政の再配分です。

これはもともと国際間で用いられる用語ですが、中国国内は広いですから、これに適応しようということ。おそらく、このようなどころも重要な問題だと思います。

第2は、他のアジア諸国の開発経験から見た比較という視点は、やはり今回のシンポジウムでも重要な論点の1つです。アジアの経験、いわゆる権威主義的な開発体制は、中国との比較ではどのように位置付けられるのでしょうか。このようなことが、やはり経済面からでも重要であると思います。

それから3番目、これは経済システムと外部環境、経済と社会環境との共生という新しい視点について、中国はどのように取り組んでいくのかということ。CO<sub>2</sub>削減、水、さらにはリサイクルの在り方等々、これは環境セッションの主要な論点でもあるかと思いますが、同時に経済の問題でもあります。

4番目は利害関係の調整システムについて。これは大変重要な問題だと思っております。要するに、現状を踏まえていけば、

一党支配のもとでいろいろな利益主体、ステークホルダー (Stakeholders) がいろいろ自己主張を始めています。そのなかで、それをいかに調整していくのかという問題です。

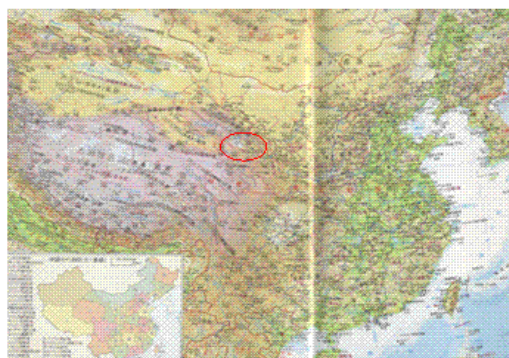
それから5番目には、やはり経済の問題ではなく、先ほどジャック・ホウ先生のお話にもありましたように、モラル、精神という問題は、やはり重要な問題ではないかと思えます。特に経済面では、企業のコンプライアンス (Compliance) の問題や社会的責任の在り方をいかに進めるかということです。以上、少し論点の視点、もしくはは論点の提起に留めたいと思えます。

○ルー・ディン 谢谢。其实刚才川井先生讲的几点意见都非常重要，已经涉及到中国当前社会、经济、政治几方面最重要的一些课题，许多话也是我本来想要讲的。我觉得今天听侯教授讲演，有一点他讲的非常精彩就是中国在邓小平时代就强调“发展是硬道理，让一部分人先富起来”。所以中国在80年代一直到90年代，主要的课题就是怎么增长，怎么把经济推入起飞的轨道。当经济起飞以后，到了90年代中期以后，逐渐就出现很多社会问题。当一部分人先富起来，经济已经起飞了，首先出现的就是增长和公平的问题。我们知道中国个人收入不平等的指标（基尼指数）一直在增长。现在中国其实已经到达了南美的水平，所以这么高的一个基尼指数其实是处在一个社会动荡不稳定的边缘。我们也看到媒体报道，中国发生了越来越多的地方骚乱和群众的请愿活动。另外一个不公平的表现就是城乡的不公平。城乡的不公平是由于体制上对农村居民进城的限制，所以造成农民工跟城市居民落差的扩大。另外还有一个现象就是地区之间差距的扩大。如果光是有不平均的发展，但是这个机会是均等的那么还可以，人民生活还能够接受，问题是机会不均等。最近中国社科院的一个调查也表明，大部分的群众都认为，中国的官员很多人致富都是利用不公平的手段。第二个大的课题就是增长和效率的问题。所谓的增长和效率，其实就是中国的增长模式长期以来虽然非常成功使经济起飞了，但是其实是一个存在很多效率问题的一个模式。首先它是一个高投入的模式，中国的投资率、储蓄率都是世界上最高的，靠大量的投入。这个资本产出率跟韩国、日本经济起

飞阶段比起来也是相当高的。用比较高的投入才达到这样的增长率，这个增长又是建立在廉价劳动力（劳动力价格非常低）、低汇价（人民币汇价长期以来压低的）的基础上的。然后国内的能源供应又是低于国际价格的价格，国家控制了能源的价格，这样等于是一个出卖低廉的劳动力，压低自己的成本来供应世界的市场。更严重的是还在牺牲中国的环境资源。这样的一个增长模式其实本来是一个外向主导型的模式，外向主导型的模型在日本和东亚国家雁行理论里面都是成功的先例。中国也成功的跟走了这条路使得经济起飞了。但是发展到现在就面临着—个转型，需要转到以内需为主的一个增长模式。而且中国国家这么大，不可能持续走这条路下去。现在整个世界经济的不平衡，整个国际经济的不平衡，美国的大量赤字，中国大量的盈余、外汇储备的超高，这个都是造成全球经济不平衡的一个原因。中国这么大，外向型为主导的路不可能再走下去，已经走到顶了。所以在这个环境承载力，国内的劳动力成本的压低，这个不光是造成中国本身的分配不平均，也是全球分配的不平衡。中国现在面临增长和公平，增长和效率这两个大问题，可以说是我们这次讨论会应该重视的，也应该集中讨论的。最后三分钟讲一下长期的课题，我想这个长期的课题一个是政治民主的问题，也是刚才川井教授讲到的。“和谐”，其实这两个字拆开来看的话，“和”其实一个“禾”就是“稻禾”、一个“口”也就是说要解决吃饭问题，是经济发展问题。“谐”，一个是“言”，一个是“皆”，就是让大家都有机会说话。一个要让大家有机会说话，一个让大家吃饱，这才会有和谐。但是中国现在其实是一部分人很饱，但是大部分人是没办法说话的。从长期来讲，也是刚才提问的一位先生和川井教授都提到了，就是道德问题、中国的文化建设问题。中国的文化建设、道德建设这个问题非常严重，侯教授讲到中国的儒家文明的重要性，对中国经济繁荣的重要，但是很可惜中国的儒家文明在近现代受到一次一次革命的冲击，到了中国文革都已经荡然无存了。所以中国很多社会问题都是一个道德问题，而亚当·斯密的另一部著作就是《道德情操论》，他自以为这个著作比《国富论》更重要，所以我们想中国今后可能需要更重视道德情操的建设。谢谢！

○藤田 環境セッションの藤田と申します。隣の宋先生とお話ししましたが、これまでの環境班はいつも隅の席ほうでしたが、今回は真ん中の席にいたので驚きました。環境も出世したかもしれないということでしょうか。

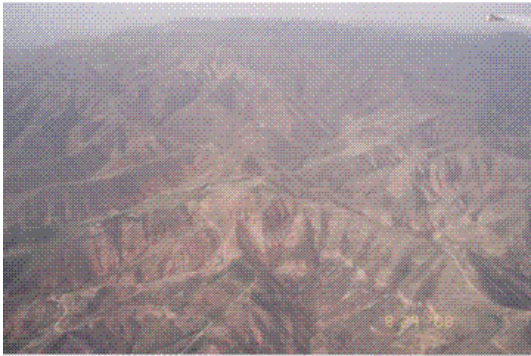
環境セッションでは、「開発に伴う環境変化と和諧社会」が大きなテーマです。せっかくですから、今日ご出席いただいている、青海省社会科学院から来られた孫先生のお世話で、この夏に青海省をめぐるしたので、少しそのへんのお話を入り口にさせていただきますと思います。



なお、明日、孫先生の発表がしっかりございますので、興味のある方は、ぜひそちらにご出席いただいて、聞いていただければ大変ありがたいと思っております。

青海省は、行かれた方も、行かれていない方もおられると思いますが、丸印よりはもう少し広いのですが、だいたいあの辺りで、中国で最大の青海湖、青いきれいな湖があります。色からもわかりますように、チベット高原の一部です。だいたい 2,500メートル以上の空間です。

飛行機から見ますと、本当にはげ山が多く、降水量も、場所によりますが、250 ミリとか 300 ミリ以下です。そうしますと、このように、ときに雨が降りますと浸食が進んでいきます。この土砂が下流のほうへ流れ込んでいくという場所です。



西部開発が非常に進行していきまして、実は中国のなかでも青海省が一番の奥地の部分です。その点で言いますと、一番環境条件は貧弱な部分です。これは省都である西寧市の写真です。西部開発によって高層ビルが次々と建ち、ここへ行くにも高速道路ができていました。省のなかも、道路整備が進んでいました。おそらく、今後の観光開発が意識されているのではないかと思います。

この写真でおわかりになるかもしれませんが、やはり、空気、視界はそういうものではありません。日にちによって違いますが、概して言いますと、やはり埃（ほこり）が多い街です。一緒に行った水質を測る先生も、ここに流れている川を測定しましたが、伝導度（値が高いほど、水中のさまざまな物質の量が多い）が高く出ています。

そのような状況で、西寧市のもともと多くない人口の中のかなりの人たちが、ここに集中をしています。これは河谷にありますので、この谷が開発のシンボルになっています。

ここは黄河や長江の源流地帯です。これは黄河の流域の農家を訪問したときの写真です。このようにガラス温室で、この農家は年収2万円とおっしゃっていました。

このような奥地のほうも、場所によっては、今の商品経済の波をうまく利用して高い収入をあげています。家の中には、テレビ、冷蔵庫、洗濯機、それからトラクターまで揃っていました。この村に関して言いますと、7割ぐらいが、この家のようなレベルにあるという話でした。

急速に農村も変わっていると言えると思います。商品作物をつくっています。商品経済が、非常に奥地のほうまで入り込んできているということです。



これは、退耕還林（たいこうかんりん）の事例です。タール寺という密教系の有名なお寺ですが、その町の周辺を撮った写真です。このようなかたちで、かつて街を包んでいた階段耕作の部分に、このような木が植えられ、周辺がモデル地区になっています。あちらこちらで退耕還林の成果が、かなり進んでいるということを見せていただきました。そのような点で、スローガンだけではなく、青海省の場合はかなり実現しているという状況にありました。ただ、中国政府は、退耕還林政策については、今まで出している資金は出すけれども、新しい新規の退耕還林面積はやらないということのようです。



このように南にはげ山地帯があります。このはげ山地帯には、大きな谷、ガリー（gully）が発達しています。ここに階段耕作的な段をつくって草を植えて、はげ山を改善しようとしています。

一方では、国有林管理がかなり進行して

います。このように山間地域ですと、全体としては、はげ山が多いですが、部分的に、このような見事な植林も進んでいます。



一方、高原の上に行きますと、乾燥地帯ですから砂漠があります。この地域は、もともとは草原でしたが、そこに入植者が入



って砂漠化してしまいました。そのあと、またこのようなかたちで苦勞して復元している様子です。

そして、より 3,000 メートル近いところの草原地帯では、このようなかたちで草を植えて工夫しています。これも微妙な地形、あるいは土条件でうまくいったり、いかなかったりということがあがるようです。

そして、低所得地帯のなかで、多くの人たちを、そのような地域から 1カ所にもって来るといふことで、いわゆる生態移民の場所です。このようなものもつくられています。

しかし、一番上流のほうへ行きますと、このように自然の侵食が進行しています。

そして、青海湖です。一番きれいで大きな湖がこれです。鳥の島 (Bird Island) へ行ったときの看板の写真です。なぜ看板の写真を撮ったのかと言いますと、われわれが行ったときには、鳥の数がこれしかありませんでした。これは季節によります。残念ですが、これしか見ることができませんでした。

ここには湟魚 (こうぎょ) という、非常に成長の遅い魚がいます。しかし、これも乱獲で非常に数が減ってしまい、今、保護政策が実施されています。もともとチベット族の聖地でもあったわけですから。そこで今、徹底的な管理がおこなわれています。



そして黄河です。「黄河」と言いますが、青海省では、「黄河」ではなくて「白河」です。白色です。したがって、これも環境条件により色が違って来るわけですから。上流のほうは黄色くなっていません。

そして、自然の農村をうまく生かしたようなレストラン等が、あちらこちらにできつつあるということです。

簡単ですが、以上です。奥地の生態系が一番弱いところから中国を見た場合にどうなるのかということです。非常に環境が弱いですから、そこに少し手を入れることによって、それが地域にどのような影響を与えるのかという点が今後の問題です。



ようやく、今、ここまで開発行為が及んでくるようになったわけですから。その点では、それをどのような基準で見えていくのか、環境の活路をどこに見出していくのでしょうか。人間の生産活動と、どこで調整し合わせていくのかということです。

それと同時に、生態的な単位、地域単位というものを、どのような設定をすることによって、きちんとそれが認識できるのか、その範囲の大きさ、広がり、そのようなことも非常に重要な問題として今後出てくると思います。

それともう 1つ、パブリックな空間をなかなか確保することがうまくできません。上からでないといけないところを、このような形で地域の人たちのなかから、上へあげていくことが、非常に大きな問題が多々あるという感じがいたします。

少し長くなりまして申し訳ありませんでした。以上です。

○宋献方 我是中国科学院地理科学与资源

研究所的宋献方。我是做水研究的。我实际上从 2004 年起每一次都参加爱知大学的学术研讨会,包括参加了第一届 COE 环境组连续几年的活动。正像刚才藤田先生说的,这次会议的顺序好像发生了很大的变化。我想这种变化和这次会议的主题有非常密切的关系,我看了一下会议的主题,实际上与以前会议主题的名字有很大的变化,以前都是在讲巨变的中国发生了什么变化,这次主题是开发和和谐社会。实际上刚才前面经济组的川井先生讲的这些问题,我想我们都很清楚,那么回过头来讲,我谈一些感想,给一些建议。实际上也像刚才我们今天的这个主题报告候先生讲的,从中国五千年历史来讲,东方思想在经济发展中的作用当然有很多不同的意见。那么我想在这里边,刚才在会场一位日本朋友提出中国有没有宗教的问题,我想在这讲这个问题也好。也就是说我以前讲过中国这个社会有五千年的历史,又经过了共产党建立政权以后实行了一系列的政治运动。我在讲政治是好事也是坏事。同样文化大革命也是两个方面的作用。那么实际上经过文化大革命以后,中国现代的社会,我以前也讲过,应该是最开放的一个社会,没有任何的宗教束缚。以前的儒家思想经过文化大革命以后确实是变化了很多,西方的一些宗教思想也进入了中国。但是应该说现在在中国国内没有一个统一的宗教可以约束 13 亿中国人民,也就是说现在 13 亿中国人想什么都可以、讲什么都可以、干什么都可以,现在是非常开放的一个国家、民族。因为本来中国就是一个多民族的国家。实际上讲汉族就是一个多民族混合的一个民族。刚才候先生讲他长在台湾,实际上他也讲出身是大陆。我们当时批以前台湾的总统李登辉讲汉族是什么玩意不知道,我自己也是汉族,实际上严格的说汉族是什么民族不是太清楚。刚才候先生讲唐朝的时代,实际上唐朝我们国家的文化就是多元文化,应该说是一个非常混合的民族。那么大家看看中国历史上几个这样大的王朝,唐、宋、明、元、清,实际上汉族建立的王朝严格的说来只有宋朝和明朝,但是在那个时代也不是特别的强盛。当然清朝开始的时候也是非常强盛的,但是后来出了一些问题,正好候先生讲的这些问题。我想说爱知大学作为中国以外的研究中国问题的一个学术机构,究竟定位在什么地方?所以我想应该下一步在争取战略方向

上,我们要明确。如果仅仅是每年开一次会,实际上和我们的定位可能,我想应该不止定这么低。我觉得以前就在我旁边的加加美先生他提出这个方法论,那么我建议会议的主题,应该每一次针对一个实际问题,正想刚才藤田先生讲的青海的问题。实际上我们 COE 经过第一期五年以后,已经对中国这个情况,应该说比较了解,当然完全了解还不可能。那么应该选那么一个主题真正实际去做一些调查,我刚刚佩服候先生讲的,他已经是这么大学问家,还只是讲他是对中国问题感兴趣的一个小学生,他说因为他没有在中国待很长时间。那么我听到候先生讲这个话实际上我有非常大的一个感想就是,做中国研究一定要针对中国的问题到现场去看一看,当然我们读以前的书、读以前的资料也是非常重要的一个方面,但是更多的要到目前现实的中国社会去看一看,到底现在发生了什么。如果我们不看,只是凭一些资料或者只是想象我们传统的一些认识,实际上中国发生了非常大的变化。正像我们第一期 COE 讲的,“巨变的中国”,中国确实是巨变。那么我在讲我本人,我们在讲中国社会,无论是官僚阶层还是研究阶层,基本上中国是四十岁到五十岁之间的人在当家。五十岁以上的人很少,因为我们有文化大革命,那时候没有大学生。也就是说这一代人既是文革的受害者,也是文革的受益者,也是非常辛苦的一代。我为什么这么讲,因为我们在读书的时候,实际上不是特别辛苦。因为那个时候提倡毛主席教导我们要德智体全面发展,实际上做起来,中国做事上有政策,下有对策,往往会发生偏差。这样也就造成了我们上小学、初中、大学基本上是国家来管,那么我们分配工作也是国家来管,那么到现在我们得到的位置,因为我们五十岁以上到六十岁以上的没有,所以我们这一代人什么机会都占住了,但是实际上也有很大的波动。因为时间的限制,所以我这个说话主题可能和和谐社会不是太合拍,我就建议我们 COE 以后,应该选择一个主题来共同来做一件事,而不要分开政治也好、经济也好、文化也好来单独操作,这样的话可能不利于爱知大学将来的长期战略。谢谢!

○加々美 政治セッションのテーマは、「和諧社会と開発政治」となっています。ここで使われている「開発政治」は、聞き慣れない言葉だと思います。最初に、その

テーマについての基本的な考え方を、皆さんにご紹介したいと思います。

「改革開放」という言葉は、この約 29 年ずっと使われてきました。いわば、ほとんど皆さんが、十分に改革開放の中身について実践を通じて理解できているということがあります。

しかし、「開発」という言葉は、初めから使われていた言葉ではないのです。実際には、1990 年代に海南島の開発などがおこなわれた際に、一般に「開発」という言葉が使われました。しかしながら、学会、あるいは政策的な部分において、「開発」という言葉は極めて使われることが少なかったのです。「開発」という言葉が、正式に使われたのは、1990 年に国務院が発表しました「西部大開発」の大綱といわれるものです。これが 2000 年から本格化したとします。上に「大」がついて、「大開発」という単語が使われるわけです。

私はこの報告のなかで、皆さんに、ジャック・ホウ先生も含めて論争を仕掛けたいと思います。私は、ジャック・ホウ先生のご報告の初めの部分を聞き漏らしておりますので、正確にジャック・ホウ先生の観点をすべて理解しているかどうか、少し私自身にも問題があります。しかし、「開発」という概念に、重大な問題が潜んでいると思います。この全体のシンポジウムを、「開発と和諧社会」といたしましたのも、実は開発と和諧には、相互に対立・矛盾する内容が含まれてくるということです。開発と和諧が矛盾・対立を来している、この現実に対して、政治的にどのように解決することができるのかという問題が、「開発政治」という言葉の概念です。

開発の概念の一番の問題は、ジャック・ホウ先生のご報告もそうでしたし、いろいろな方のご報告もそうですが、経済成長第一主義、経済成長を第一に考えることと、もう 1 つは、ビッグ・プロジェクト主義、つまり規模の大きな建設プロジェクト、そのようなものを推進するという内容を含んでいることに開発の根本的な問題があるわけです。この経済成長第一主義とビッグ・プロジェクト主義を、私は「開発主義」という言葉で概括したいと思っています。

実は、経済成長そのものが天井にぶつか

るといふか、隘路にぶつかっているのは、この開発の持つ負の部分をもたらしている社会的現実によるわけです。貧富の格差はむろんです。それから地域間格差、産業間格差、もちろん農工商格差も含まれます。それだけではなく、環境破壊、環境汚染という問題、あるいは資源の枯渇、特に熱エネルギー資源、水資源の枯渇といったことが、極めて深刻に発生しています。それが経済成長そのものを、普通は外部経済的要素とくくられていますが、実は経済成長の持続的成長を妨げる重大な要因になっているということです。

1984 年に、東京大学の経済学部の宇沢弘文という教授が、『現代日本経済批判』という本を岩波書店から出しました。1980 年代、既にサッチャリズムなどが起きていました。先ほど話に出ました全面自由市場主義、アダム・スミスの議論、そのようなもの前提として、クオリティー・オブ・ライフ (quality of life : 生活の質) というものを、日本はあまりにも無視し、成長一辺倒で来ました。そこに一番大きな問題があったと宇沢弘文は指摘したわけです。日本がきた道を、中国は今ひた走っていると私は考えます。

今ここで、成長に天井がくる前に開発政治を考え、しかもそれを政治は具体的な現実を踏まえなければいけませんから、先ほど宋先生が言われたように、ICCS の研究は、抽象的開発政治を論じるのではなく、社会紛争を起こしているような個別的事例のなかに立ち入って、どのような和諧と開発の矛盾を克服する道が見出せるかというものを考えるということ、これがここで使っている「開発政治」という言葉です。

まだ依然として、ここで私が申し上げているのは、基本的に言えば、考え方のみを皆さんにお伝えしていますが、今後の ICSS の研究事業展開のなかで、その具体的な姿を一つひとつ提起していきたいと思っています。これには、むろん少数民族の問題も含まれます。

○許紀霖 感谢 ICSS 和加加美光行教授的邀请，我是第一次到名古屋来。我知道爱知大学的前身东亚同文书院诞生在上海，我来自上海，所以感觉到这里来倍感亲切。我觉得这次会议的主题非常好，关于中国的发展

与和谐社会。我们都知道，实际上从江泽民、朱镕基时代到胡锦涛、温家宝时代有一个很大的发展变化，国家政策的变化。这个变化就是江泽民、朱镕基时代秉承了邓小平的“发展是硬道理”、“让一部分人先富起来”，他们抓的主要是发展，这个发展重点是在于沿海地区的发展。先是广东，然后是上海为龙头的长三角，主要是发展。经过差不多二十多年的发展，中国经济崛起了，但是也出现了非常严重的内部社会问题，这些社会问题主要就体现在中国内部社会的各种各样的断裂。这个断裂是多方面的。一个是各个不同的区的断裂，沿海与内地、城市与农村。也有阶层的断裂，就是社会的各种不同阶层的收入、社会地位悬殊的差异，这方面已经到了非常触目惊心的地步。且不说像发达地方、地区，比如说我所在的上海，这个城市内部上下的阶层的差异很大。前不久我去山西，山西过去是个穷地方，现在因为他产煤，是一个能源大省。后来我发现在山西的社会阶层的差异甚至要远远超过上海。山西的很多人包括城市的平民和一般的农民依然很穷，但是山西有很多煤矿主，现在山西出煤矿主，其富裕到了难以想象的地步。我发现每个周末从太原飞往上海、广州、北京的班机都是满满的，因为这些人要到这些地方去度周末。所以这样一些严重的断裂就产生了很多的社会问题，进而引起很多的群体事件乃至一些政治的问题。因此到了胡温时代，他们除了重视发展以外，还开始提出和谐社会。当然和谐社会这样一个理念，主要在于要协调不同的社会利益、社会的群体。在发展的前提下，向那些内地、农村和弱势群体有所倾斜。这点是和江朱时代的一个比较大的变化。但是我们要注意到，即使是这样，和谐社会还是有一个前提，这个前提就是经济发展。经济发展在今天依然是硬道理，甚至比和谐社会在某种意义上还更重要。这个更重要就是说，我们要看到中国之所以社会出现了断裂，但是还没有引起全局性的社会动荡和政治危机（只是一些局部性的群体事件），乃是因为很多矛盾被掩盖了，之所以被掩盖是因为经济还在高速增长。因为经济在高速增长，这个蛋糕还在扩大，所以即使分得少一些，绝对的一些生活还是有所改善。所以发展依然是中国今天的一个硬道理，甚至是当前中国政治秩序合法性的最基本前提。也就是说今天中国政治秩序的合法

性是建立在增长的合法性基础上的，一旦GDP的增长比如说到了7%以下，不仅失业严重，很多社会问题也会产生，甚至会引起非常严重的政治秩序合法性的问题。所以我们说发展和和谐社会实际上是同等重要，甚至更重要，但是和谐社会必须得提出来。问题在于如何和谐？首先我认为这个和谐可以理解为两个方面，一个是利益和谐，还有一个是价值和谐。从利益的和谐来说，最核心的问题是如何分配利益，今天中国发生的一个问题就是说产生了强大的利益集团。这些利益集团他们和地方政府形成了一个非常密切的关系，因为地方政府的各种各样的增长，地方政府本身的利益要靠利益集团来推动。所以中央政府很多理念（比如说和谐社会）现在要推下去很难，因为他受到了强势的利益集团乃至地方政府的各种利益上的考量而大打折扣。所以弱势群体、弱势地区的这些利益实际上往往还得不到保障，特别是制度性的保障。那么怎么办？这个问题也就是说到了今天，政治体制的改革被提了出来。政治体制的改革实质就是一个理性的、合理的分配利益的问题。民主讲到最后就是一个合理的、理性的利益分配的问题，所以这个问题已经到了一个刻不容缓的地步，当然政治体制怎么改？从何改起？那当然是另外一个问题，值得我们来继续讨论。另外的一个是价值和谐的问题，今天中国的断裂，不仅是社会的断裂，更重要的是价值的断裂。所以现在有句流行的话“中国现在是形势大好、人心大坏”。“人心大坏”就是说人心内部一些最基本的价值标准失去了、失落了，社会失去了一些公共的价值和公共的标准。和谐的社会背后要有一些共同的理念、共同的价值，最后才能实现儒家所提出来的“君子和而不同”。“不同”就是利益不同，他的某些具体的价值观不同，但是他能保持这个“和”。这个“和”不是一团和气式的“和”，而是背后一些最基本的理念，最起码的一些社会公德性的方面的“和”，他们一些共同的价值，但是这个需要我们继续来努力。这个问题我明天下午的报告会上具体涉及到。这些具体方面我想明天我会和各位具体讨论。谢谢！

○座長 ありがとうございます。続きまして周星先生、お願いします。

○周星 我是爱知大学国际交流学部的周星。我的论文是在这个论文集的175页到182

页。我是想从文化的角度来响应这个会议的主题。大家知道，中国的改革开放到最近几年进入了一个困难期，当然也进入了一个比较深化的时期。目前，有三个正在进行的非常重要的改革，一个是就在前不久提到的农村土地制度的改革。这个改革涉及到了执政党坚持的一些底线，这个底线到底是不是所谓社会主义的底线？还是像刚才一位教授讲的只不过是古代井田制在现代的一个演化？中国历史上是有过土地国有的传统，我们现在是不是有一些误解，把它误读成了社会主义的底线？这个我们不去讨论，但确实是一个敏感的改革。第二项改革涉及到社会总体的改革，以户籍制度为主，就是说全面地放松户籍制度。虽然改革进展的不是很快，但是这种改革确实在逐渐的全面铺开，它的意义就是说政府管理这个社会的方法，过去沿用的那套方法已经不能够再维系，那么，就要改革。究竟它有什么后果，现在我们还不知道。因为虽然中国政府是一个很大的政府，有时候会自以为能够包打天下，可是，真的把户籍制度完全放开以后，政府能够预计到的后果现在还不知道。这是现在正在进行的，所以说，还是试探的逐渐摸索的一个改革，有时候是把一些改革的权限放给地方政府，让各个条件成熟的地方政府逐渐地改，从地方政府改起，全国并不是统一改。第三项改革则是经常被忽视的，这就是文化体制的改革。其实就在这三四年，中国进行了大刀阔斧的文化体制改革，我今天主要说文化体制改革。在我的论文里面，第一节主要讲改革开放在文化这个侧面，是说中国的文化体制改革有一个过程。我的论文的第二节，讲的是现在正在展开的文化体制改革的四个要点。文化体制的改革也涉及到非常敏感的问题，也就是所谓的底线，这个底线指的不是所有制，而是指执政党的意识形态。因为在中国，长期以来文化被看做是上层建筑的一部分，是共产党意识形态的一部分，这是非常重要的敏感的底线。所以，我把土地制度改革、户籍制度改革和文化体制改革看做是中国目前进入改革更为深化阶段的证明。文化体制改革有四个要点，第一个就是说中国政府试图继续维持官方意识形态的影响力，但是，又想在这些意识形态和文化的不同领域之间做出明确的切割，这是一个首先要作的，即尽量把文化问题和意识形态分开，就像当年把政治问题和经济问题分开一样，

这是它的第一项改革原则。即便文化有时在某些方面被认为具有意识形态的某些属性，它也已经是民族主义的意识形态，或者是民族国家的意识形态了，而不是像很多年前那样是阶级的意识形态，或者是革命政党的意识形态，这方面已经有了很大的变化。第二个要点是说文化体制改革是在一个市场经济的环境下，具有文化产业化的方向，改革的方向是就文化产业化。产业化，简单地说，就是对所有可能发展成为产业，或者具有消费市场潜力的文化领域，全部都进行类似于经济体制改革那样的改革。文化体制改革，其实就是在截止目前被认为比较成功的经济体制改革的延长线上，把那套改革拿来放在文化领域进行操作。第三个要点就是采取一个分类原则，也就是把所有的文化领域分成一部分是事业，一部分是产业，产业的部分尽量不让意识形态去干扰它，就按照自由市场经济的原则去发展。政府当然会试图控制，会施加它的影响力，但是这基本上是一个市场走向的改革。对于产业这个部分是通过市场机制去改革，但对于事业这个部分，则是强调政府对于文化的责任，要求向全体人民提供更多的文化公共服务。第四个要点就是文化行政改革，政府的职能需要在文化这一领域里也实现转换。如果我再回过头来说，把问题归纳成我理解的要点，那么，究竟发生了什么变化，就是说，中国的这三十年如果从文化角度来看的话，中国曾经奉行的是“革命”的文化政策，现在则变成了是一个全民的文化政策，过去曾经把文化看成是阶级性的，有一部分文化是被切割、打倒、革除的、比如“破四旧”，现在则把文化看作是全民的、民族主义的、全体国家的。这里面包含着一个价值的重建，传统文化全面复兴，试图在中国重建其价值。还有一个思路就是，曾经把文化当做政治来理解的时代已经逐渐地结束了，现在就是把文化作为经济来处理的一个阶段，但与此同时，又出现了把文化就作为文化本身来理解的一个时代的课题。这三个阶段，并不是能够很清楚地划分开来，但是它确实是三个阶段，大概可以看得出来，这三个阶段的互相重叠，互相有交错，可是，这个方向性是很明显的。大概这就是我的理解。这个过程就是说，从文化这个领域，实际上也是跟中国政府的对和谐社会建构这样一个导向是相互配合的。以上是我的一个简单的说明，就到这里。谢

谢大家！

○張海洋 各位晚上好！我非常感谢高桥先生，还有高明洁、周星老师推荐我来参加这个会议。我来自中央民族大学中国少数民族研究中心，我叫张海洋，我发言的提纲是在第 137 页到 142 页。我做这样一个题目是想通过突出一个领域来给我们这个研讨会关于和谐社会理念提供一个杠杆。我认为和谐社会是中国共产党成立以来提出的最有创意的一个理念，我们有责任来充实它的内容。我也感谢 ICCS 抓住这样一个概念来研讨它，我们认为和谐社会应该有一个理念的模式，这个模式的顶尖就应该是人与自然和谐的可持续发展，那是目标。它的金字塔的底座就是我们目前的市场经济、科学技术和民族国家的体制。从这种基础到这个目标之间应该是有四个斜坡来支撑。第一个斜坡我们就叫他纵向分层的和谐，或者叫城乡贫富、区域发展的和谐，总的来说是一种马克思和谐。这个大家都在讨论，其实是一个老话题，它的重要性被夸大了，因为大家都已经认同了。第二个我觉得有点被忽略了，那就是横向分类的和谐，也就是民族、宗教、语言的和谐。这个是一个马克斯·韦伯和谐的问题，是一个新问题。我说前一个问题被夸大了，国际共产主义运动搞了一百多年，西方自由主义搞了两百年，大家想法看法都一致，就是要消除它。大家有高度的认同，没有问题。但是对于怎样对待民族宗教语言的问题，大家就还没有这样高的共识，因此还要注意研讨。第三点是古今人神的和谐，也就是各民族历史文化的公平传承，仪式跟信仰，活人跟死人，当代跟历史的和谐。我觉得可以用一个亚洲价值，叫它萨满和谐。最后一条是国际关系和谐，就是承认人类不同国家和区域之间有差别，但也有基于人性的认同。我认为第一个问题在中国表现为三农问题，第二个问题在中国表现为少数民族问题。这两个问题对于中国是同样的重要，没有农民的中国和没有少数民族的中国都不是中国，但它却没有得到同样的重视。中共中央 1978 年改革开放以来三十多年，三至四次的中央全会决议就是不计其数的“一号文件”，都是调整关于农村的关系。这些改革都是在给农民吃定心丸，给公务员和投资者划界限，让他不能侵犯某些方面的利益。但是对于同样的少数民族的问题，国家却很迟疑，一不给定心丸，二不划禁区。这就造成了巨大的改革开

放的社会赤字。国家对少数民族和宗教到底要怎么样？在市场经济和开放社会条件下，我们应该抓紧解答和解决这一问题，包括推动国家通过改革创新来解答它。因为发展和开发 Development，不会放过少数民族地区。事实上，它已经就引起了前面各位所说的巨大的生态环境问题、社会公平问题、少数民族文化的公平传承的问题，这些矛盾在积累。而且就以 2008 年藏区的“3·14”，贵州的“6·28”，云南孟连的“7·15”，最近还有甘肃陇南的“11·17”，这是一个很明显的，带有趋势性的动态。社会矛盾在向这个地区集中，这应该引起我们的重视。我觉得在矛盾的如此积累，而国家不出台主导政策，孕育着巨大的社会政治风险。我接着想说什么是中国？中国是一个多元一体的复合文明，它由畜牧和农耕两大生计板块构成的，相当于太极图上的两仪。西边有一块高中国，东边有一块低中国，这样构成一个整体才是全中国。光有汉人没有少数民族的中国不是中国。这一点我们要有一个整体的认识。今天的中国比古代又复杂一些，东边有港澳台，西边有蒙新藏。我今天要强调为什么少数民族问题被忽略。我觉得这里边有唯物主义、经济主义、社会达尔文主义，也就是说专门以物质能力成败来论英雄，而不注重人的精神，不注重社会道德。我们说为什么一定要注意研究少数民族？因为少数民族在中国有着非常重要的意义，他就相当于日本的大米，有少数民族就有中国，相当于西方基督教，有少数民族在就有公平的指标，就是我们的天良。我觉得对于中国而言，他还相当于一种社会政治的多元化。国家只要有少数民族在，就不可能一下子把每个东西都给做没做坏。基于这一点我建议各位关注少数民族的问题，我们也有机会也有机制，机会就是说现在距离辛亥革命 100 周年还差三年时间，2012 年，在这三年时间里面我们有足够的时间学习做中国农村研究的人怎样推动了中共中央做出一次一次的决议。大家应该联合起来多做这方面的研究，摆出这方面的需求来，就是说让政府来重视。第二个机制是中央民族大学愿意做这种平台，各位的研究基地包括 ICCS，欢迎各位到中央民族大学这样一个平台来，我们少数民族中心愿意做各位的下家。那么最后我就是想说感谢，再次感谢！Thank you!

○座長 皆さま方、どうもありがとうございます

いました。私もゆっくりまとめようかと思いましたが、本当に時間がありません。今のご発言のなかで、いくつかの共通点がありました。ここは座長の権限で勝手に解釈させていただきますが、やはり何人かの方は、経済問題のなかで、特に効率と公平という概念に触れられました。つまり、効率と公平のアンバランスの問題が、現在の中国の社会矛盾、あるいはその他のさまざまな問題の1つの根源であるというところは、ほぼ共通しているのではないかと思います。

2点目は、精神の問題です。モラルに関する問題、あるいは道徳に関する問題です。あるいは宗教に関する、いわば人間の内面に関することです。このようなことに議論がおよぶことは素晴らしいことです。これは先ほどのジャック・ハウ先生のご講演のなかでも、アダム・スミスに触れられましたし、儒家思想についても触れられました。あるいはまた、マックス・ヴェーバー (Max Weber) の『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』、これもある意味では経済の問題を考える際の重要な歴史的な文献ですが、同時にアダム・スミスについても触れられました。スミスはご承知のとおり、『国富論』のほかに『道徳感情論』という本を書いています。これはまさにスミスの道徳を、経済価値における自由経済の仕組みにおいて、道徳あるいは人々の内面的な制欲、あるいは精神的なバランスをどのようにとっていくのか。これなしで経済はうまくいかないということを言っているわけです。その意味で、今日は、経済と、精神、心理に関する宗教をも含めた心理面、その2つの面について共通する考え方が示されました。

さらには、「開発」という言葉についての解釈です。今回のシンポジウムのテーマはまさに「開発」と「和諧」です。開発には二面性があります。開発とは、言うまでもなくハード面での開発です。まさに「西部大開発」でおこなわれたようなインフラストラクチャーの開発、あるいは資源輸送のための輸送機関の開発といったようなインフラ面での開発と同時に、これに付随して人間の開発が必ず伴ってくるわけです。

つまり、ソフトと申しますか、ハードウェアの開発に伴って必要になってくる、い

わば、新しく作り変えた自然に対する人間の対応の仕方です。これを周星先生は「文化」と表現されたと私は理解しています。この「文化」につきましても、いわば経済主義と言いますか、この周星先生の文化的な分類の類型化の仕方は、私は門外漢なものですからなかなか理解できない点もありますが、やはり産業化、経済化、経済による文化の区分け、このようなところも進んできています。文化による経済のコントロールから、経済による文化のコントロールへという1つの転換が、側面として見られるようになってきているというように考えることもできるかと思います。

もう1つは、今の「開発」という言葉に関連しまして、加々美先生から「開発政治」という新しい言葉の問題提起もなされました。つまり、社会的、経済的、文化的な、さまざまな具体的に出現している問題に対して、いかにして解決をはかっていくかという実践的な、より現場主義的な目が必要です。これを政治的な観点から解釈をされてきたわけです。これには、多分に論争的な意向もあります。

さらに政治に関して、許先生からお話がありましたが、自由な政治の誕生の前提となるためのものをどのようにつくっていくのかということです。私は午前中の趣旨説明にて、「経済改革」「政治改革」「社会改革」「国際改革」の4つの言葉を示しましたが、自由政治という概念、これは私たちの社会からするとわかりやすいのですが、中国においてはまだまだ浸透しにくいというものがあります。この点に関しまして、許先生は、分配の在り方、利益の調和、いかにハーモナイズ (harmonize) する社会をつくるかという場合に、利益の調和をどのようにはかるかということを示されました。利益の分配をどうするか。実は、この点も論点の1つだと私は思います。

つまり、これは私が明日、個別報告で話そうと思っていますが、果たして分配の調和をはかるだけでいいのでしょうか。もちろん、これはまだできていないから問題なのですが、私はもう少し根源的な問題があるのではないかと考えています。そのへんも討論したかったのですが、時間が制約されています。

効率と公平については、川井先生とルー・ディン先生が、同じような視点から問題提起をなされております。特に、ルー・ディン先生は、さまざまなことを述べられたなかで、やはり重視されておられるのは道徳モラルです。あるいは不公平と公平のアンバランスという問題です。これもよく理解できると思います。

冒頭で、川井先生もモラルの問題に触れられました。特に企業の社会的な責任、コンプライアンスの問題、これは川井先生のご専門ですので、その視点からの問題提起がありました。特に意見が重なっていた点は、とりわけアジア諸国との比較、つまりアジア型の開発、典型的に言えば雁行的とか、あるいは開発独裁といわれるようなアジア型の開発独裁と中国の問題が、どのように関係し合っているのかという視点がありました。

宋先生からは、東洋的な視点で、中国五千年の歴史のなかでの東洋的な思想、これを環境との関連で、どのように調和させていくのかというところが関心の点ではなかったかと思えます。

さらに藤田先生からは、青海省での調査に基づきまして、具体的な青海省の環境破壊の実態、ならびにそれを是正していこうとする動きについて、写真を基にして実態の報告をしていただきました。そこには、やはり生態系の回復にはどのような取り組みが必要なのか、具体的には、生態系と個人の間におけるアンバランスが環境問題であるといえます。現実問題として起きている、自然と人間社会とのアンバランスの結果生まれた環境問題を、人間がいったいどのようにして回復できるのでしょうか。自然自体は回復できる部分とできない部分があります。それに対して人間は、どのように能動的に働きかけて、開発と回復をはかっていくのかという視点のように、私は理解をいたしました。

それから、張海洋先生からは、とりわけご専門の分野とも関連して、少数民族問題との関連でお話されました。私は少数民族問題の専門ではありませんので、詳しくは申し上げられませんが、張海洋先生のお話から、やはりこれは中国社会にとって大きな課題であることは間違いないものだろう

と思います。

しかし、これは少数民族の問題だけではなく、農民の問題も裏腹な関係としてそこにあるということです。やはり、張海洋先生もマックス・ヴェーバーのお話をされましたが、公平ということと、つまり経済運営、政治運営、社会運営、人間がとにかく絡んでいるわけですから、そこにどのようにして公平性原則をビルトインして安定化させていくのか、これが重要な視点ではなかろうかという話だと思います。加えて国際的な観点からの「和諧」をどのように求めていくのか。そしてそのうえで、人と自然の和諧が初めて達成できるというようなフレームワークのお話をされたかと思えます。

### 【 質疑応答 】

○会場（張玉林） 谢谢主席！我是南京大学社会学系的张玉林。我首先想介绍一下我自己对中共中央决定里面对中国当时处于一个基本和谐状况的理解。我个人感觉他可能没有什么具体的指标，主要是从大局上的政治安定来考虑的，或者说来判断的。这种政治安定换一个比较消极的说法可能就是说执政党还在执政，这如果说放到一些具体的区域、小的区域的话恐怕是很难做这种判定的。第二点我非常同意许纪霖教授对于不和谐的两种根本原因的评价，而且我个人的感觉如果要补充一下的话，我认为可能价值的和谐是更加重要的，实际上他影响到利益的和谐，或者说利益的均衡。这个价值的和谐最主要的就是体现在我们的国家层面上、意识形态层面上就是一种发展主义，发展是硬道理。那么在个人层面上，大家都知道是发财、致富或者说拜金主义，这样一种价值观念成为国家生活成为个人生活的终极的非常核心的指导思想，那么他实际上已经变成了一种宗教。刚才下午大阪的一位朋友问中国有没有宗教，我个人认为从不是非常严格的学术意义上来讲，中国这三十年是有宗教的，而且这种宗教已经变成了一种邪教。问题是我们目前对这一点还没有很好的反省。非常不客气的讲，刚才侯教授的报告，我听了之后有点觉得坐不住，为什么坐不住呢？你的核心想告诉我们的信息就是中国在未来的25年可能只还有23年了，还会增长7%。首先我们不问这个根据确实的依据到底来自哪



里，那么作为一个社会学者我想提醒的是，增长 7%他有什么样的意义？价值在哪里？那么包括刚才提到 4 万亿也好，现在实际上中国各个地方政府已经追加到 18 万亿了，我觉得这样一种经济对策实际上是以挽救小的崩溃来为大的崩溃堆积条件、积累条件。这一点我觉得经济学家尤其是需要认真的思考和反省。谢谢！

○座長 はい、コメントということによろしいですね。張海洋先生のご質問は、私もよく理解できますが、おそらくこの話になりますと、また時間をとりますので、明日からの議論のなかで、また深めていただければと思います。ありがとうございました。

それでは、ほかにありませんか。南京大学がこれで 2 人続きますが、よろしいですか。

○会場（朱安新） 我是南京大学的朱安新。特别想对张海洋老师提一个问题。您提到了韦伯式的和谐，这个和谐您在做概念的时候有没有作为提出这个观念的学术上和现实上的 background？比如说在中国有某种萌芽的状态可以来讨论韦伯式的和谐，或者说这是一个规范性的目标型的概念您提出来。请。谢谢！

○座長 では、簡単にお伝えいただけたいと思います。張海洋先生、お願いします。

○張海洋 我觉得和谐社会和科学发展观提出本身也算是一个前提，就等于大家对于意识形态之争，然后纯粹的唯物论的唯经济论应该算是一种超越。我强调韦伯式的和谐，实际上跟马克思那个有一点稍稍并置的意思。马克思注重物质的方面，韦伯注重观念的方面，也就是刚才前边老师说的价值和谐。这个方面你要说他有没有前提，我深信人性的需求，特别是老人和孩子的那种永恒的需求，是我们无论如何要特别关照的。而在这

一点上中国的少数民族人比起主流社会汉人特别是比城里人做的要好一些。所以我觉得应该让城里的人好好去学习他们怎么样去传承，那反过来的话，就会朝着这个和谐的方向走。我知道天下的事，他也有客观上的局势结构，也有主观上的能动性，我们必须用我们的能动性，否则我们都认了命的话，我们还当人干什么？谢谢你！Thank you!

○座長 はい、ありがとうございました。大変残念ですが、もう時間がきていますので、このへんで閉じたいと思います。ただし、シンポジウムは今日始まったばかりですので、今日示されたいろいろな問題のほかにもたくさんのご質問があるかと思えます。明日から本格的に議論いたしますので、ぜひその際に、もっと深く、広く、ご議論をしていただければと思います。

本日は午後からジャック・ホウ先生のご講演、ならびに総合セッションの討論会ということで、またたく間に時間が過ぎ去ってしまいましたが、ぜひ皆さま方、明日からもお越しただいて、議論に加わっていただければ幸いです。

取りあえず、今日はこれで締めさせていただきます。どうもありがとうございました。

○司会 ありがとうございました。これで総合セッションを終わりますが、どうも和谐社会に対する見方は、専門分野、また自分の立場によってだいぶ異なるようです。今日、ご来場の皆さんも、今日は問題提起にすぎませんので、今晚しっかり質問を温めていただいて、明日、その内容を用意しておりますので、そのときぜひ登壇者との間に熱烈な討論を繰り広げることを期待しております。それではこのセッションを終了します。